

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0 / A ¥ 1 8 9 0 / B ¥ 2 0 9 0 / C ¥ 2 2 5 0 / D ¥ 2 4 9 0}

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

www.tambourine-japan.com email: song@tambourine-japan.com

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

Fairport(P16) England(P25)

[Blu-ray/UK] PAL Region 0

- *ALLAN TAYLOR: 50 Years On The Road ¥2650
(2016年5月、ドイツのノルトハイムで行われたAllan Taylorの弾き語りによるライブ。半世紀に及ぶ音楽活動を振り返る選曲で、実際と心の旅を続けるAllan Taylorの真骨頂のシンプリシティに徹した心温まる全13曲。尚、通常のブルーレイ・プレイヤーでの再生は可能だが、テレビ内蔵のプレイヤーでは音楽のみの再生になる。2017作。Stockfish)

[DVD/UK] NTSC all regions

※国内製DVDプレイヤーで再生可能

- *ALBERT LEE & HOGAN'S HEROES
: Live At Stazione Birra, Rome ¥1500
(Albert Lee & Hogan's Heroesのローマでの約2時間の白熱のライブ。70年代のAlbert Leeのスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全25曲。112分。2009作。Heroic)
- *ALBERT LEE & HOGAN'S HEROES: Live In Paris ¥1500
(2003年パリでの約2時間のライブ。どっぷり70年代スタイルのカントリー・ロック～南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全22曲。102分。Heroic)
- *JOE COCKER: In Concert A
(81年の白熱のコンサート・ライブ。"Feelin' Alright", "A Whiter Shade Of Pale", "Watching The River Flow", "Delta Lady", "You Are So Beautiful", "With A Little Help From My Friends"他 Joe Cockerの十八番ナンバーの13曲。スワンピークな南部ロックも最高。2003作。トイ Alpha Centauri)
- *MEIC STEVENS: An Evening With Meic Stevens C
(2007年7月、ロンドンでのライブ。デビュー時は「ウェルズのホブ・テイラー」と呼ばれたこともあったMeicだが、今は齢を重ねたRandy Newmanのようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSWの中のSSWを実感させる全15曲収録のライブ映像だ。2008作。Sunbeam)
- *ERIC CLAPTON: Music In Review A
(YardbirdsやCream時代そしてソロになってからの希少映像を挟みながら Jack Bruceや"Cream"の著者Chris Welch等がE. Claptonを語るドキュメンタリー-DVD。"Layla", "I Shot The Sheriff", "Sunshine Of Your Love", "Crossroads", "It's Too Late", "Wonderful Tonight" and more. 61分。Sandbeach)
- *VAN MORRISON: Under Review 1964-1974 A
(様々なライブ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら彼の音楽変遷

をアルバムごとに詳細に紹介するドキュメンタリー-DVD。112分。2008作。Sexy Intellectual)

- *LINDISFARNE:Classic Rock Legends B
(Lindisfarneの白熱ライヴ。“Lady Eleanor”, “Meet Me On The Corner”, “Roll On That Day”, “Everything Changes”等など11曲。80分。2001作。Carlton International Media)

[LP/UK, IRELAND]

- *TIR NA NOG:The Dark Dance ¥2790
(250枚限定LP盤。Sonny CondellとLeo O'Kellyのアイリッシュ・フォーク・デュオ“Tír na nÓg”のスタジオ録音盤としては、1973年の“Strong In The Sun”以来の四枚目となる新作。Sonny Condellの2013年のソロ“Swallows And Farms”などを通して、今もなお“Tír na nÓg”流の音楽を創作していることを知っているから、そうも驚かなかったが、1970年代の夢想的ブリティッシュ・フォークの香りが充満した二人の唄とギター・サウンドは、あの時代の“Tír na nÓg”の音楽の空気感に信じられないほど充ちていて、ファンは極楽必至。Tír na nÓgは不滅。2017作。Mega Dodo)

[CD/UK, IRELAND]

(FOLK, SSW, ROCK)

- *RAY COOPER:Between The Golden Age & The Promised Land C
(元Oysterbandで現在スウェーデンで暮らすSSWでマルチ楽器奏者のRay Cooperのソロ。トラッド曲2曲以外は全曲自作曲。面白いのは全体的に英国フォークの味わいが深まっていること。例えばアイスランドに移り住んだChris Fosterが英国トラッドを凜として志向したアルバムを制作していたのに対し、Rayの場合、凜として志向した音楽は、Ralph McTell風英国叙情漂う英国フォーク。Rayにとっての目指す音楽の理想型はそうした音楽で、英国トラッド風味を適度に加えながら、純粹に独自の英国フォークの味わいを高め、深めている。スウェーデンに移り住んだからこそ結実しえた「ワンマン・バンド」による豊潤な英国フォーク。Ralph McTell以上。2018作。Westpark)
- *RAY AUSTIN & FRIENDS:A Piece Of Heaven C
(1943年英国ヨークシャー生まれで1970年にドイツに移り住み、フォーク&ブルース・クラブの経営をし、SSWとしても活動してきたRay Austin翁と仲間達による本作は、1970年代SSWファンにとって、終始夢見心地な音楽。Ralph McTellの“Street Of London”, Bert Janschの“Needle Of Death”やJohn Prineの名曲三曲等など、SSWファン泣かせの曲を仲間達とゆるく懐かしむように演奏したう。聴き親しんだ曲が多いが、どの曲もRay翁色の唄と化していて、一曲一曲が味わい深い。そんな音楽は70年代のSSW達が夢想したある種「夢の世界」というか、Ray翁がドイツの地で育んだ“A Piece Of Heaven”な「楽園」のような音楽。アコースティックで土臭いサウンドや女性シンガーのヴォーカル・ハーモニーがこれまた美味しい。昔親しんだ言葉を使えば、極上の「ヒューマン・ソ

グ」。全 17 曲。2017 作。Wonderland)

*BARRY NISBET:A Bright Ray Of Sunshine B

(初めてお耳にかかるシェトランド出身の SSW。録音はスコットランドのパーシシャー。Gordon Lightfoot のような節回しによる穏やかで、ちょっぴりしみじみ感のあるヴォーカルは、北米の SSW の資質で、ほわっと心穏やかな気分になる。録音はおそらく普段から一緒に活動をしている気心の知れた音楽仲間によるグループ編成で、風通しの良いアコースティック・サウンドと女性シンガーによるそよ風のようなヴォーカル・ハーモニーなど、何ともフレンドリーで牧歌的。そうそう、三曲目の“Brydon & Anona's Wedding Waltz”は、自身のフィドルをフィーチャーしたインスト曲で、スコティッシュの香り高い演奏は、心に響く。そうか、彼はシェトランド人だったんだ。2018 作。Barry Nisbet)

*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:Like A Radio C

(Matthews Southern Comfort の新作。メンバーは Iain Matthews {ヴォーカル、ギター} と 2010 年頃から Iain と活動をしているオランダ人ミュージシャン三名、Bart Jan Baartmans {ヴォーカル、ギター、ベース、ドラムス}、Bart de Win {ヴォーカル、キーボード}、Eric De Vries {ヴォーカル、ギター、マンドリン} の四名。再編ではなく新生 MSG の音楽は、Iain Matthews のうたうことへの執念と西海岸スタイルのロックへの憧れとがポジティブに実を結んだ Iain Matthews の「今」のロック。オランダで出逢った仲間とロックし、ハモる西海岸ロックは、手に汗握る。“Second Spring”収録の James Taylor 作“Something In The Way She Moves” {ボーナストラック} も再演。2018 作。MIG)

*LISA KNAPP:Till April Is Dead - A Garland of May B

(「春眠暁を覚えず」というか、「春」の訪れを夢見心地のまま感性を優しく研ぎ澄ませて、柔らかな感性で伝統歌の数々を Lisa がシンキングした春いっぱいなトラッドだが、ブリティッシュ・フォークっぽいアルバム。川のせせらぎの音や鳥の鳴き声や鳩時計の時報を知らせる音や奏法の枠を超えたとちらかと言えばノイズで愉快的な各種楽器の音などが鳴り響く中、Lisa は春の夢の中で遊ぶ少女のように“Till April Is Dead”や“Searching For Lambs”や“Lark In The Morning”などの春向け {英国では初夏?} の伝統歌を夢うつつに口ずさむ。Donovan の“HMS”に通じるおとぎ話的ブリティッシュ・フォークの世界。奇跡の一枚。全 12 曲。2017 作。Ear To The Ground)

*LISA KNAPP:Wild And Undaunted B

(一枚目。2006 年。Ear To The Ground)

*JOHN SPILLANE:All The Ways You Are B

(Christy Moore や Karan Casey や Pauline Scalon や Muireann Nic Amhlaobh などのアイルランドの著名トラッド系シンガー達によってレコーディングされても知られる John Spillane の新作は、SSW として 35 年以上にわたる活動の中で世に送り出した自作曲 11 曲をギターの弾き語り、気分新たに再演したもの。身にしみえるような、時に魂を鼓舞するような響きを発するギターをお伴に、John はアイリッシュ英語のニュアンスを強調するような唄い

方で、言葉を噛みしめるようにうたう。静けさの中、人生の悲喜交々感が宿った唄、一曲一曲が心に響く。2017 作。Inspired)

*JOHN SPILLANE:A Rock To Cling To B
(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の 2011 作。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)

*GLEN HANSARD:Between Two Shores B
(アイルランド人 SSW、Glen Hansard の三作目に当たる新作。彼の Frankie Miller をも想起させるソウルフルなヴォーカルは、たっぷり余裕があって、カッコよく、加えて、どういう連中か知らないが、ホーンを含めたロックは、熟達した感のある米国南部志向のロックで、全ての南部風要素をミックス・ジュースにしたような上質の旨みがあるロック。明らかに米国の南部志向音楽に影響を受けたであろう SSW だが、そうした音楽性を志向しつつ、独自の唄の世界とロックの世界を体現していて、凄い。2018 作。Plateau)

*JOHNNY COPPIN:All On A Winter's Night C
(デビュー当初から愁いのあるブリティッシュ・フォークで魅了してきた Johnny Coppin の待望の新作。聴いた時期が良かったのか、新春仕事始めに聴いた Johnny Coppin の冬向きの唄の数々は、どの唄も誠実で初々しくかつ愁いがあり、心身の芯からリフレッシュさせられる 120%J. Coppin な純良ブリティッシュ・フォーク。今年で 72 歳になる彼のハイトーンのヴォーカルと清々しい英国フォーク・サウンドは、まるで今が旬のように愁いを保ちながら輝いている。彼のベストの出来映え。w. Paul Burgess, Dik Cadbury, Karen Tweed, Geoff March, Steve Trigg, David Pickering-Pick. 2017 作。Red Sky)

*BOB KNIGHT:Meet Me On The Moor B
(スコットランドのジプシーのトラヴェラー・シンガーに影響を受けたというスコットランドの SSW、Bob Knight の新作は、過ぎ去りし日々を懐かしくうたったような滋味豊かな SSW アルバム。自身のギターの弾き語りを中心に終始穏やかなペースで穏やかな唄をうたう。そして Johnny Hardie のフィドル、Kenny Hadden のホイッスル、Steve Ronsome のハーブがスコティッシュな哀愁を添える。秋の夜長に心に響く唄たちだ。2017 作。Bob Knight)

*ALLAN TAYLOR:Behind The Mix B
(2000 年作“Colour To The Moon”の限定ボックス版 {廃盤} のボーナス CD“Behind The Mix”の再発盤。前半の数曲が Allan Taylor のソロで、残りが Allan Taylor&Derroll Adams のデュオ曲という構成。“Colour To The Moon”収録直前に亡くなった Derroll Adams {1925-2000} の追悼盤の印象。気心を知った二人の息の合った演唱に心和む。全 15 トラック。P22 のブックレットでは思い出の写真も挿める。2000 年/2017 作。Stockfish)

*ALISON O' DONNELL:Climb Sheer The Fields Of Peace A

(Mellow Candle の Alison O' Donnell の新作。Mellow Candle 時代の音楽、その美意識と通底する音楽を齢を重ねた Alison がひとり、今の目線で創作したのが本作という印象。Alison の頭の中は独自の「夢のようなドラマ」を創作すること。そのための助っ人に選ばれたのが、アイルランド人ギター&電子楽器奏者で SSW でもある Dave Colohan。Dave は Alison が描く唄の世界に寄り添い、必要最小限の微細で美しい音響を創作し、音で Alison の頭にある「夢のようなドラマ」を彩る。10月5日で65歳になった Alison のまろやかな渾身作。2017 作。Mega Dodo)

- *ALISON O' DONNELL: Hey Hey Hippy Witch A
(Mellow Candle の Alison の 2009 年作。12トラック+1ボーナス・トラックの全13トラック。全曲自作曲。Alison のヴォーカルは終始優美で穏やか。ことさらにフォーク・ロックの衣装で、或いはケルトの衣装で着飾ることはなしに、ただ一人の SSW として、自分の唄を誠実にうたっていて、それだけで滋味豊か。2009 作。Freeworld)
- *ALISON O' DONNELL & ISABEL NI CHUIREAIN: Mise Agus Ise A
(その Alison とアコ、キーボード奏者の Isabel とによる故郷アイルランドのルーツに根ざしつつ、ロックやジャズの要素も融合させた秀逸作。元 Mellow Candle の David Williams {ギター、フィドル、マンドリン} が参加。2006 作。Osmosys)
- *SONNY CONDELL: Swallows And Farms A
(Tir Na nOg {ティル・ナ・ノグ} の Sonny Condell のギター弾き語りの 2013 年作。唄も緑の楽園に住む吟遊詩人っぽくて、70年代の夢見るブリティッシュ・フォーク・シンガーの花畑〜田園の夢世界ムードにほんわかと包まれていて、信じられないほど夢見心地な音楽。彼の気ままに吹く風のようなふわふわな唄とクリスタルな輝きを放つ彼の独特なアコースティック・ギターのサウンドが織り成す最高に極楽な SSW 音楽の世界だ。2013 作。Irish World Music)
- *RALPH McTELL & WIZZ JONES: About Time A
(本作は50年前にRalph McTellがWizz Jonesの招待を受けて共演したのを記念して、今度はRalph McTellがWizz Jonesを招待して実現した二人の初共演盤。二人の阿吽の息は見事で、もう何十年もデュオとして活動してきたかのように、ヴォーカル・ハーモニーも、ギター演奏も決まっている。2016 作。Leola)
- *WIZZ JONES, PETE BERRYMAN & SIMEON JONES
: Come What May B
(おそらく W. Jones {ヴォーカル、ギター} が P Berryman {ヴォーカル、ギター} と S. Jones {サクソ、フルート、ヴォーカル} を誘って制作された「真夏の夜の夢」のような W. Jones 流ブリティッシュ・フォーク。ボーナス曲三曲を含めた全14曲の内、P Berryman がヴォーカルの主導権を取るの三曲のみ。しかし P Berryman の唄はすこぶる穏やかで、W. Jones の浮遊する音楽にとけ込んで聞こえる。その内の一曲は SSW の Anne Sumner とのデュエットで、泣けるほど心優しい曲。W. Jones の "Right Now" を初めて聴いてから40数年。今なおあの頃味わった音楽と似た感動が味わえるとは! Riverboat)
- *JENNIFER CROOK: Carnforth Station A

(ハーブ奏者で SSW の Jennifer Crook の三枚目。旅の思い出など、Jennifer が紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生するメロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする気分。Jennifer {ヴァーカル、ハーブ 他} に Eliza Carthy Band の Beth Porter {チェロ、フィドル、ハーモニー・ヴァーカル}、Jackie Oates Band の Mike Cosgrave {ギター、アコ、ハーモニー・ヴァーカル} のトリオ編成。ピカー。2014 作。

Long Tale)

- *DAVID HUGHES: I Can Explain A
(Jacqui McShee と Gerry Conway がほぼ全曲でバックキングの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと 70 年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。ブリティッシュ・フォークの名盤。w. Bert Jansch, Helen Watson, Chris While, Julie Matthews, Martin Brunnsden。2004 作。Folkcorp)
- *LYLE McGUINNESS BAND: Acting On Impulse D
(台風で屋根が飛んだときの被害盤。ジャケット裏面に水に濡れた痕跡以外は新品同様。1988 作。Line)
- *KIERAN HALPIN: Akoustik D
(SSW アルバムの名盤。1992 作。Kieran Halpin)
- *HUW AND TONY WILLIAMS: Junction Twenty Six ¥2800
(ブリティッシュ・フォークの名盤。1991 作。Steam Pie)
- *HENRY McCULLOGH BAND: FBI Live (2007 作。Mundell Music) D
- *HENRY McCULLOGH BLUES BAND: Belfast To Boston D
(2001 作。Walk Away)
- *TONY REIDY: Round Tower Blues A
(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。2015 作。Tony Reidy)
- *MICHAEL WESTON KING: Live... In Dinky Town A
(何とも物悲しい響きのギターの弾き語りライブ。Tim Hardin の名盤“The Homecoming Concert”くらい身にしみる。2002 作。Twah!)
- *KRIS DREVER: Black Water & Live A
(リマスター・デラックス版。二枚組。2012 作。Reveal)
- *PAUL MILLNS: Unsang Heroes B
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music))
- *MARY HAMPTON: My Mother's Children A
(Vashti Bunyan 等 1970 年代のブリティッシュ・フォークの香りのるちょっと不思議な雰囲気的女性 SSW。夢の世界をか細い、少し震える声でうたう。自身のギターやピアノを中心にした鳥のさえずりなども取り込んだサウンドも Good。2008 作。Navigator)

- *SAFFRON SUMMERFIELD: The Stonemason's Dream A
 (地震で発見。英国のカントリーサイドの穏やかさが感じられる Saffron のたおやかなギター [1972 年製 Guild D35] の弾き語り。Robert Jarvis のトロンボーンがのどかさを運ぶ。アイルランドの伝統曲 "The Dawning Of The Day" のメロディを拝借した "On Raglan Road" 他全 9 曲。のほほ一ん。2002 作。Mother Earth Music)
- *HUW M: Gathering Dusk A
 (まるで 70 年代の夢見る SSW のような、同じウェールズの Meic Stevens の唄にも通じるような魅力的なアルバム。彼の唄の世界は夢うつな世界。朝日の中で、夕日の中で、その心地よい時間の流れを楽しむかのような穏やかで美しい唄の数々。自身が爪弾くギターをはじめ、アコースティックなサウンドも彼の唄の色に彩られている。Bethan Reynolds とのハーモニーと共に夢の世界へ。朝、目覚める頃、夢うつなまどろみの中で聴きたい。発売年は 2011 年。Gwymon)
- *JAKE WALTON: Silver Muse B
 (新曲に過去の曲を加えて新録した本作は、"The Gloaming Grey" を包んでいた英国的愁い [その愁いはケルトの神話への愛着や故郷コーンウォールへの想いに発する愁いなのだが] が、同じように感じられるアルバムとして美しく結実。Jake 自身、自分の歩みを振り返りつつ、同時に改めて自身の音楽のルーツを確認し、新たな気持ちで音楽する快さに充ちている。伴奏は Jake のギター、ダルシマー、ハーディ・ガーディと Eric Liorzou のマンドーラ、ギターの二人の演奏を軸にしている、そのアコースティックな響きが、本作の新鮮さを高めている。全 15 トラック。2015 作。Celtic Monkey)
- *LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR: The Birds Never Cease A
 (アイルランドのウォーターフォードの SSW の Liam Merriman が同郷の Eoin O' Meachair [ハヅヨ、マンドリン、ホイッスル] をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。Liam 自身は Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうで、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが気持ち良い。2015 作。Three Rivers)
- *CATHERINE HOWE: Because It Would Be Beautiful B
 (かつて 1970 年代、ブリティッシュ・フォーク界の歌姫だった Catherine Howe の新作。Vo Fletcher [ギター], Ric Sanders [ヴァイオリン], Michael Gregory [ドラム] がバックを務めていて、Vo Fletcher のミステリアスなギターをフィーチャーした弾き語りのフォークとバンド形式のフォーク・ロックとが混在したスタイルを取っている。Catherine 様を中心に同窓会的雰囲気楽しい。2015 作。Talking Elephant)
- *ALISTAIR OGILVY: July Moon C
 (スコットランドの SSW として大物の器の Alstair の 2014 作。Alstair の唄は歌唱力に相応しく雄大。しかも雄大であり、かつ繊

細。スコットランド風の叙情も感じられる。根っこの部分に、Runrigのようなスコットランド魂が感じられる。(ゲスト:Karen Matheson。2014作。July Moon)

- *LESLEY CURTIS:Looking For The Girl A
(女性SSWのLesley Curtisの信じられないほど美味なアメリカなロック。エレキギター、スティールギター、トブロー、マントリン、オルガン、ベース、ドラムス等の楽器編成のロックは、1970年代の頃あたりの爽やかなカントリー・ロック風で、Lesleyの唄は爽やかに輝いている。ある意味時代遅れのアノグなカントリーロック風サウンドだが、たつぷりと自分の好みのサウンドに充ちたサウンドの中でうたうLesleyの唄は清々しくて何とも心地よい。2015作。Curly Lettuce Production)
- *JASON STEEL:Fire Begot Ash A
(70年代SSWファン、ブリティッシュ・フォーク・ファンはニンマリ一枚。ギター、或いはバンジョーを爪弾きうたうJ.Steelの音楽は、Michael Hurley風の気楽さと英国の田舎っぽさとBert&John風ギター等が混ざり合った心地よい音楽。最愛聴盤。Rif Mountain)
- *STEVIE PALMER:Heartprint Shadow A
(イアン・マッシュズを想起させるヴォーカルと曲によってはヘロンを想起させる牧歌&夢想フォーク・サウンドは心穏やか。夢想的で信じられないほど歌詞が詩的で心優しい唄ばかり。w. Mary MacMaster, Steven Polart, Kim Edgar, Wendy Wetherby, Allan Knox。2010作。Greentrax)
- *MARY JANE:Tacit A
(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求めるMary Janeの3枚目はライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Treesのライブアゲが好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”, “She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000作。Seventh Wave)
- *THE STEPPES:Drop Of The Creature a
(アイルランド人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。Delerium)
- *STONE ANGEL:East Of The Sun B
(Stone Angelの素晴らしいNew。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。2001作。Kissing Spell)
- *VASHTI BUNYAN:Lookaftering A
(二枚目。薄型ジュエル・ケース仕様のサンプル盤。2005年。Fat Cat)
- *SUSAN McKEOWN:Belong C
(アイルランド人女性シンガーのSusan McKeownの2014年作。本作はこれまでのアルバムの中で異色。Maria Muldaurのようなノスタルジック・ムードの声が裏返る唄やグラス・マー風安酒場っぽい唄など、ひと味違う。大人の女性ムードの魅惑のSSWアルバムなのだ。2014作。East River Music)
- *JOHN MARTYN:No Little Boy ¥1000
(w. Levon Helm, Gerry Conway, Spencer Cozens, Dave Gilmour, Phil Collins, Alan Thompson, etc. 1993作。Parmanent)
- *STEVE TILSTON:The Reckoning B

(ブリティッシュ・フォーク・ギター奏者として、かつシンガーとして大活躍の Steve の本作は全て自作曲。気高く繊細で、かつ気品のあるギターの響きとクリアとして穏やかな唄は愛おしいほど美味。英国フォークの名盤。2011 作。Hubris)

*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS:La Terre Commune A
(異色のデュオ。それぞれのソノの持ち味とデュエットがバランスよく収められた友情盤。2001 作。ドイツ Blue Rose)

*LUCY WARD:Single Flame B
(若き女性 SSW の Lucy Ward は、2012 年、BBC のフォーク部門で「新人賞」に当たる“Horizon Award”を授賞。本作は二枚目。Lucy が作る唄は独特だ。英国の昔話、特に不気味な話や不思議な話が好きで、そんな世界を自分で創作して唄にした感じで、音楽が彼女の世界、宇宙として結実している。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲「神様、私は嵐の中で死にたくありません」[船津訳]は、June Tabor のトラッド的世界にどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013 作。Navigator)

*CEDARS:Little Copper Still A
(Cedars は紅一点の女性シンガーの Chantal Hill がヴォーカルの英国のルーツ・ロック・バンド。彼らのルーツ・ロックはかなり本醸造。Chantal のヴォーカルは古いブルース・シンガーやホピュー・シンガーの妖艶さを放ち、それでいて現代のフォーク・シンガー風でもあって、熱いスライド・ギターやハンゾーの演奏はストレートにロック化していて、熱い。ルーツの匂いがたっぶり。2013 作。Clubhouse)

*JOE COCKER:Fire It Up ¥2690
(CD+DVDセット。DVD は PAL 方式。久し振りに聴く Joe Cocker は、この 40 年あまり、結局南部ロックにとりつかれら音楽人生だった、ということ。同じ釜の飯を食った仲間達の多くが、音楽的にも、実際にも第一線から身を引いていった中で、Joe はしぶとく南部ロックを第一線で演じてきた。アルバム・タイトルが示すように、特に本作が「熱く」演じたアルバムなのかも知れないが、70 年代初めの Mad Dogs&Englishmen 時代となんら変わらぬ入魂の唄と南部フィーリング溢れるロックにすっかり骨抜きになる。8 曲目“You Don't Know What You're Doing To Me”は“You Are So Beautiful”を想起させるソウルフルな美しい曲。DVD は CD 収録曲の中から 6 曲のライブが挿れる。2012 作。ドイツ Sony)

*ALASDAIR ROBERTS:Farewell Sorrow B
(Andy Roberts の息子でスコットランドの SSW の Alasdair の孤独感漂うやる気のないヴォーカルと伝承歌的夢物語の世界で遊ぶ独り言的唄達は何とも不思議な世界へと誘う。2003 作。Rough Trade)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow A
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

*JAMES GRANT:Strange Flowers A
(Scott Walker や John Martin を想わずソウルフルなヴォーカルは

- 静かに闇が迫るように圧倒的な Great な SSW アルバム。w. Karen Matheson, Donald Shaw, James MacKintosh, etc. 2009 作。Vertical)
- *DUNCAN McCRONE: Colourblind B
(70 年代からスコットランドのフォーク・シーンで活動してきたヴァンガード SSW, D. McCrone のヨ。D. McCrone の本作は、総じて穏やかだが、ストーリーテラー風フォーク・シンガー・スタイルで、内省的なテクニシャンが感じられる唄とリズミクス・スタイルのブリティッシュ・フォークの香りのする牧歌的で郷愁をそそる唄が混在し、どこか懐かしい気分させられる。w. Ray Laidlow, Steve Lawrence, Chris Stout, Finlay Macdonald, etc. 2012 作。Circular)
- *EDDIE MARTIN: Folk & Blues a
(「アメリカ」で取り上げたい渾身のブルース・ハーブ {ブルース・ハーブの妙技も素晴らしい} を吹き、ギター&ホーン・セクションの弾き語りブルース・アルバム。イギリスの妖精物語 “Kind Lady Moon” {男が悪魔にさらわれる物語} さえ、Eddie の手にかかるとゴゴゴのブルースに変幻する。ここまでブルースを自分のものとし、操れるブルース・シンガーはそうはいない。J. J. Cale や Eric Clapton のファンにお薦め。2010 作。Blue Blood)
- *LAURA MARLING: A Creature I Don't Know B
(本作は昨年 9 月に発売された同名タイトルのアルバムに 16 トラック収録ライヴ CD “Live From Yorkminster” をセットにした 2 枚組限定盤。Laura の音楽性はフォーク、カントリー、ロック、ジャズ等様々な音楽性が散りばめられ、多彩だが、弾き語りを基本にしていて、ソングライティングや感性の部分で、Joni Mitchell の影響が感じられ、加えて Leonard Cohen や Neil Young を想起させる部分もあったりで中々魅力的。プロデュースは Glyn Johns の息子の Ethan Johns。2012 作。Virgin)
- *ELEANOR McEVOY: Alone B
(アイルランドの SSW の E. McEvoy の 9 枚目の本作は、アコースティック・ギター、或いはピアノ、或いはエレキギター、或いはベースギターを一曲一曲持ち替え、弾き語りであつたもの。タイトル通りの Eleanor 独りぼっちの世界の唄ばかり。2011 作。Moscodisc)
- *CANDICE NIGHTS: Reflections A
(Ritchie Blackmore の奥さんの Candice の優麗なヨ。すべての人が夢の中。2011 作。Minstrel Hall Music)
- *FREDDIE WHITE: Close To You B
(一枚発見。1991 年作。EMI)
- *EMMA TRICCA: Gypsies And Red Chairs a
(イタリア人女性シンガーによる夢想的ブリティッシュ・フォーク。Suffron Summerfield, Davey Graham 推薦。2001 作。Fairylands)
- *MASTER OF CRAFTSMEN C
(一枚発見。Bert Jansch, Simon Nicol, Vikki Clayton, Dave Pegg, Dave Mattacks, Chris Leslie, G. Giltrap, etc. 99 作。Terra Nova)
- *GREGSON & COLLISTER: Love Is A Strange Hotel ¥2718
(国内盤。1991 作。キング)
- *REDLANDS PALOMINO COMPANY: Don't Fade A
(全国のカントリー・ロック・ファンに絶対のお薦め。紅一点のシンガー、Hannah Elton-Wall を擁する彼ら {もう一人のヴォーカルの Alex Elton-Wall とほぼ交互にリード・ヴォーカルを取り、ハーモニーする} のカントリー・ロックは、

Kennedys くらい 70 年代米国西海岸カントリー・ロックの夢見心地な旨みを
たっぷり持った胸キュンのカントリー・ロック。2011 作。Clubhouse)

*GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY

Yesterday I Saw The Earth Beautiful B

(元 Patrick Street で SSW で名ギター奏者の Gerry O' Beirne の本作は
Rosie Shiplay なる無名の女性フォーク奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。テ
リットな感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れが
あるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる
唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)

*CAVIL: Mares' Tails

B

(何とものどかな幸せ気分になれる唄たちだ。ヴォーカルの雰囲気が一
見、Nick Drake 風だが、Nick のような神経質的な面は皆無。ジャ
ケットの写真ではないが、麦畑に心地よく吹く風のような唄がギターや
ピアノやグロックenspiel などの夢のような音色に包まれてほわほわと
流れる。こんな至福な唄の世界は久しぶり。申し訳ないが、コメント書
くのを止めてぼーっと聴いていたくなった。2010 作。Folkwit)

*CIARAN DORRIS: Home

B

(C. Dorris はベルファスト出身で現在スコットランドでカルト音楽ラジオの人気キャ
スターを務める SSW。Ciaran の唄はとても人なつっこい。アイルランドとスコ
ットランドの二つの故郷を想う気持ちが綴られた Ciaran の唄は健やか
で晴れやで、そして感傷的。アイルランドの叙情派 SSW の Ciaran Goss に
似てるだろうか? w. Shona Mooney, Calum Stewart, Stuart Duncan
, Gillian Duncan, Mary Kathleen Burke 他。2010 作。Greentrax)

*KATH READE: Passionate Nature

B

(Kath Reade は Jez Lowe が主宰する Songwriter Cup の元保持者で、
ランカシャー地方では名の知れたヴァンティ女性フォーク・シンガー。本作がデビ
ュー作。Kath の唄は土地に根ざしたフォーク。と言ってもその土地の伝統歌
をうたうのではなく、Kath 自身が土地の伝承や土地の人々の営み
を自分の言葉でうたったもの。音楽性はむしろ 60 年代~70 年代の
ブリティッシュ・フォーク/SSW っぽい。2010 作。Splid)

*DEMOLITION SKY: Demolition Sky

B

(Richard Durrant 主宰の Airport Club で 2001 年に出会い、デュオで活
動する Alistair Mackie と Mark Collyer の二人組のデビュー作。二人
ともがアコースティック・ギターを快く弾き、二人がハモる唄は清々しく美
しい。イングランドの美しい風景を描写した唄など往年の爽やかでミラ
クルムードのブリティッシュ・フォークをホフツさせもする。Produced by Richard
Durrant。2009 作。LongMan)

*DAVID ROTHERAY: The Life Of Birds

A

(Beautiful South の創設メンバーのソロ名義のアルバムで、曲目は David の
自作曲或いは David と本アルバムでヴォーカルを取るシンガーとの共作曲な
のだが、ヴォーカルを取るのは全てゲストのシンガー。そのシンガーは Eliza
Carthy {2 曲}, Bella Hardy {3 曲}, Jim Causley {3 曲}, Kathryn
Williams {1 曲}, Eleanor McEvoy {1 曲}, Alasdair Roberts {1 曲},
Julie Murphy {1 曲} 等。タイトルが示すように鳥の唄が中心だが、それ
だけでなく一曲一曲の唄がしっかりと、心に残る唄ばかり。
2010 作。Proper)

- *AL STEWART WITH DAVE NACHMANOFF:Uncorked B
 (A. Stewart が古くからの音楽仲間でギター奏者の D. Nachmanoff と 2009 年に行った米国ツアーでのライブ。Al Stewart は今が最も旬かも。全 13 曲。2010 作。Wallaby Trails)
- *MEIC STEVENS:Love Songs B
 (ウェルズの Bob Dylan と言われた Meic が 18 歳だった 1959 年から 2009 年の間に作られた英語の「ラブ・ソング」集。全 13 曲。大半が未発表曲。いやはや初心回帰と言うか、Meic の唄は唄に誠実で優しい。本作はその昔、Bob Dylan に紹介してくれたという Fiona Fleming という女性に捧げられてる。2010 作。Sain)
- *MICHAEL WESTON KING
 : I Didn't Raise My Boy To Be A Soldier C
 (Bob Dylan 作の "I Pity The Poor Immigrant" と "Simple Songs Of Freedom" や Phil Ochs 作の "Cops Of The World" と "Is There Anybody Here?" や Paul Simon 作の "Homeward Bound" 等全 12 曲。2010 作。Valve)
- *LIZZIE NUNNERY:Company Of Ghosts A
 (2008 年 BBCラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファーストアルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる 2010 作。Fellside)
- *JENNA:Brother C
 (21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか見聞きし、体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が、ある時はギターの強いビートの利いた曲調で、ある時はピアノをフィーチャーした気持ちよく流れるような曲調で、ある時はタイトなフォーク・ロック調で自在に空を舞うようにうたう。若き、魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。Hands On Music)
- *ELBOW JANE:3 Side Island B
 (リバプールの風景や人の心は変わったが、希望と栄光は生きていうたう男性 5 人組。5 人の内 3 人がヴォーカルを取るが、それぞれのヴォーカルが思索的で、アコースティックな音楽は穏やかで滋味溢れるもの。ヴォーカルとハーモニーから生まれる柔らかな緊張感は見事で、むしろ SSW アルバムとして質の高さを見せている。ブリティッシュ・フォークとして音楽の質が高い。2009 作。Fellside)
- *LUKA BLOOM:Riverside ¥1880
 (w. Liam O' Maonlai, Eileen Ivers, Conor Byrne, etc. 90 作。Reprise)
- *LUKA BLOOM:The Barry Moore Years B
 (Barry Moore が Luka Bloom と名前変える前のフィンガー・ピッキング・ギターの美しい弾き語り時代に発表した "Treaty Stone" {78 作}, "In Groningen" {80 年}, "No Heroes" {82 年} の初期 3 枚のアルバムからの 15 曲入編集 CD。70 年代ブリティッシュ・フォークの芳香薫る Barry Moore 時代の CD だ。2001 作。Luka Bloom)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Shadows & Half Light B
 (2010 年 BBC の "Horizon Award" 入賞の Katriona {ヴォーカル、フィドル} & Jamie {ヴォーカル、ギター} の若き男女デュオ。作詞作曲は Jamie が主でヴォ

- 加も Jamie が主にリードを取り、Katriona はハーモニー役。Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *MIKE SILVER:How Many Rivers A
(英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Coppin そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊かな唄は最高潮。w. J. Coppin, R. McTell, Jo Partridge, Martyn Wyndham-Read, Phil Beer, Julie Silver, Roger Nichols, Mick Dolan, etc. 2008 作。Faymus)
- *JACK McNEILL & CHARLIE HEYS
:Light Up All The Beacons B
(Jack&Charlie のフレッシュなデビュー作。2008 作。Fellside)
- *CRUACHAN:Tuatha Na Gael C
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの 95 年作に 97 年録音の 3 曲のボーナス曲を加えた再発盤。全 12 曲入。彼らの男女のヴォーカルを含め、夢想性と魔性を帯びたアイルランドのフォーク・ロックの醍醐味は物凄い。イアン・ハイプスやホイッスルや小鳥の囀り等が彼らのエネルギッシュなフォーク・ロックに +α の魅力を注入している。ジャケットもブックレットも何から何まで、ケルティックで神秘的。95/97 作。オランダ Karmageddon Media)
- *GINA LE FAUX:In My Life C
(ほぼ Martin Simpson{トブロー、テレキャスター}と Andy Cutting{モーテンイオン}が全面バックアップする良質の女性 SSW アルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性 SSW のような声質とヴォーカルスタイルで、M. Simpson の味わいのあるトブローの伴奏で、心象風景や心模様をゆったりと唄にしたという感じで、一曲一曲が唄のスケッチのよう。2009 作。Le Faux Music)
- *SAM LEWIS:Everything You Are C
(Sam はある種 J. J. Gale のような、何とも夢うつな魅力的な SSW。ロック・バンドのギタリストで Neil Young のファンという Sam 自身が奏でるギターやラップ・スティール・ギターは感覚的で、緩くも星の輝きのような音色で目覚めの悪い唄にぴったしはまっている。このうとうとした感触は凄い魅力。一度聴くと病みつき。Bert Jansch とツアーをしたりもしているようだが、どんなコンサートなんだろう?2007 作。Rusk)
- *THE SAW DOCTORS:Live At The Melody Tent B
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は 2008 年の夏。Runrig クラスの魂揺さぶるフォーク・ロックだ。凄い!2008 作。Shamtown)
- *THE SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown) B
- *THE SAW DOCTORS:Villains?(2001。Shamtown) B
- *ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT
:The Rampin' Cat a
(イギリスのラグタイムやスキップ、ジブシー音楽、古いジャズやホピュー音楽そしてセピア色の愉快的唄のコミック・バンド Roaring Jelly {Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey} の 76 年のデビュー作とパブ・ミュージシャンでコンサティナ奏者の Michael Hebbert の 76 年のデビュー作の "2 on 1"。全 22 トラック。76/2008 作。Free Reed)
- *DAVID LEWIS:Ghost Rhymes A

- (Andwella の D. Lewis ではないもう一人の素晴らしい SSW の D. Lewis の 2007 作。本作も John Wesley Harding が全曲でまるでデュークのように付合っている。この David の英国人的感性が光る弱々しい感触が何とも言えず魅力。D. Lewis の陰影に富む唄そして細やかな音作りは本当に魅力的。男性 SSW だが SSWファンは皆胸キュン保証。2007 作。WOW)
- *JIMME O' NEILL:Real C
(スコティッシュ・バンド "Silencers" のリーダーでヴォーカルの J. O' Neill のギター弾き語りを中心にしたファースト・ソロ。2008 作。Keltia Musique)
- *CHRIS WHILE:Look At Me Now A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の 1994 年のアルバム。1994 作。Fat Cat)
- *CHRIS WHILE:Rosella Red A
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の 2007 年のアルバム。w. Kellie While, Gerry Conway, Joe Broughton, Neil Fairclough, etc. 2007 作。Fat Cat)
- *MARTYN JOSEPH:Full Colour Black And White A
(5 枚目。帰郷の喜びを全身で唄った軽快な 1 曲目 "Going Home" の門をくぐると、まるで自問自答するような Martyn の詩情溢れる唄の世界。録音は Michael Weston King の "God Shaped Hole" と同じ Martyn の家の屋根裏部屋スタジオ。SSW アルバムの原点。96 作。Grapevine)
- *MARTYN JOSEPH:Far From Home A
(闇も中から響いてくるようなアコースティック・ギターのクリアな響きと共に Martyn の純な唄達が心に染みわたる絶句のアルバム。99 作。Pipe)
- *STEVE ASHLEY:Time And Tide C
(S. Ashley の本作は英国的陰影に富む 70 年代ブリティッシュ・フォーク回帰の名品。w. Chris Leslie, Simon Nicol, Dave Pegg, Robin Williamson, Paul Manning, etc. 2007 作。Topic)
- *XAVIER BARO:Flors De Joglaria ¥1500
(スペインのフォーク・シンガー。カタルーニャのフォーク・シンガーの X. Baro の本作は 70 年代ブリティッシュ・フォーク・スタイルのフォーク/フォーク・ロック。Xavier は夢の旅人のイメージでのトルバドールの的でエレキ&アコースティック・ギター、ベース、オルガン、ピアノによる甘味ある優美なフォーク/フォーク・ロック。教会風オルガンや甘みあるギター等が 70 年代風ブリティッシュ・フォークの夢見心地さを引き立たせ、Xavier の唄は仮想の夢のサウンドの中でゆったり舞う。スペインのシンガーによる耽美的ブリティッシュ・フォーク。2006 作。Quadrant)
- *INCREDIBLE STRING BAND:Nebulous Nearnesses B
(Mike Heron, Clive Palmer, Lawson Dando, Fluff, Gavin Dickie, Steini Gudmundsson というラインナップの 2005 年版 ISB。余計な贅肉が落ちて牧歌的で清々しくて微笑ましいブリティッシュ・フォーク。どことなく英国版 Woodstock Mountain Revue 的音楽。スペイン Quadrant)
- *BERT JANSCH:Nicola A
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。67/2002 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Birthday Blues A
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。69/2001 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:The Ornament Tree (90 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:From The Outside A

(紛失曲“I Sure Wanna Know”を収録し、新たに CD 再発。93/2001 作。Sanctuary)

- *BERT JANSCH:Live At The 12 Bar (96 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:Crimson Moon (2000 作。Sanctuary) A
- *BERT JANSCH:The River Sessions B
(74 年 11 月グラスゴーの City Hall でのライブ。74/2004 作。River)
- *BERT JANSCH:Dazzling Stranger A
(アンソロジー-20 曲入編集 2 枚組。2000 作。Sanctuary)
- *BERT JANSCH:Black Swan (2006 作。Drag City) A
- *JOAN ARMATRADING:Into The Blues B
(全て自作曲だが、ブルース色濃厚な Joan の本作はブルースマンのブルース魂が乗り移ったスピリットの高いブルース。活きの良いブルースが快感。2007 作。Hypertension)
- *ANDY WHITTLE:Old Fashioned Dream B
(ブリティッシュ・フォークの優等生!と云いたくなるノッティンガム出身の若干 24 歳の SSW の瑞々しいデビュー作。理想の SSW アルバム。2005 作。Folkwit)
- *SCOTT MATTHEWS:Passing Stranger B
(驚きの個性的な SSW だ。ピュアさと泥臭さとを併せ持ったというか、全体として Nick Drake 的ムードを漂わせていて、自己陶醉型なのだが、スライト・ギター等ギターの名手でもあって、泥臭いブルースの世界も覗かせていて奥が深い。2006 作。San Remo)
- *PLAINSONG:Dark Side Of The Room (92 作。ドイツ Line) ¥1980
- *ROGER MORRIS:Light Up The Road ¥900
- *ROGER MORRIS:Beholder ¥900
(Roger Morris “First Album”のあの R. Morris の 2001 年作の 2 枚目と 2004 年作の 3 枚目)
- *JUDY DINNING:Fine Times D
(ノースハンプトン出身の Judy が故郷を唄ったもの。2003 作。MWM)
- *LEE COLLINSON:Breathless a
(ブリティッシュ・フォーク・ギタリストとしてかつ英国的センスが光る味のあるシンガーとして知る人ぞ知る Lee の 6 年振りアルバム。Martin Simpson の繊細&鮮烈ギターに独自のスタイルを加味したアコースティック・ギターの輝きとコクは、流石。釘づけ…。2000 作。Chama)
- *GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains A
(ブリティッシュ・フォークの数々の名作を生み出した Gallagher&Lyle の Graham Lyle のソロ。ほろ酔い気分。2003 作。ドイツ Hypertension)
- *JOHN LEO CARTER&CO.:Candyloss Girl C
(アイルランドの SSW だが、感性鋭いアコースティック・ギターの瞑想的響きと John の夢想的ヴォーカルは Nick Drake を想起させる。w. John Spillane, Mairead Kelly {ハープ、ヴォーカル}, Edel Sullivan {フィドル、ヴォーカル}, Thaddeus Buckley {ベース}, etc. 2003 作。Circle)
- *JASON O’ DRISCOLL:Dharma C
(Jason はアイルランドのフォークの SSW のようだが、たわいもない唄を素直に心優しくメロディアスに唄う。その素直さと浮遊感ある緩やかな唄が心地よい。2003 作。Jason O’ Driscoll)
- *MAGGIE HOLLAND:Circle Of Light B

(フォーク・シンガーの Maggie の唄ときっちり向き合った存在感あるフォーク・アルバム。全 15 曲。2003 作。Irregular)

- *THE VARAFLAMES: Throwing Shapes B
(Nab Noakes, Rod Clements, Fraser Speirs, Pick Withers にバックিং・ヴォーカルで Gill Bowman & Karina Polwart が加わった Varablames のおやじ歓ぶ懐古趣味ロック。2000 作。Neon)
- *RAB NOAKES: Rarities + Demos Vol. 1 C
(マルチメディア機能付 CD。70 年作のデビュー作前の 69 年に家庭用レコーダーで録音していたテープからの全 15 曲。1 曲 1 曲が磨かれる前の原石の輝き。CD-ROM は Rab の長いおしゃべり弾き語りビデオにフォト・ギャラリーほか。2002 作。Neon)
- *LINDISFARNE: Promenade B
(何とも温かい心地になれる温かで懐かしい Lindisfarne の New。2002 作。Park)
- *LINDISFARNE: The Cropredy Concert A
(94 年の Cropredy のライブ。97 作。Mooncrest)
- *LINDISFARNE: Buried Treasures Vol. 3 A
(未発表曲集第 3 弾。17 曲 + α。2000 作。Siren)
- *ROD CLEMENTS: One Track Mind B
(3 曲ボーナス付再発。Lindisfarne の R. Clements が自身のルーツの音楽フォークやブルースへの回帰そして回想したもの。w. Ray Laidow, Steve Cunningham。94/2001 作。Siren)
- *SONNY CONDELL: Backwater Awhile A
(触ると壊れそうな優しい唄と伴奏と唄の世界。S. Condell は正に夢織り人。自分の居心地のいい唄世界を創造し、オリジナルな夢音楽を生み出している。2001 作。Backwater)
- *KEVIN DOHERTY: Strange Weather A
(ウッド・ストック録音。w. Gerry O' Connor, Levon Helm, Amy Helm, Rick Danko, Aaron Hurwitz, Mike J. Dunn, Randy Ciarlante, etc. 99 作。)
- *FAYE ROCHELLE: Reflections B
(Faye 嬢の唄は一種独特。不思議な浮遊感がある。裏返るヴォーカルによつて東方風味のエキゾチックなサウンド...。女性的な感性がきらめく唄。w. Nigel Eaton, Kuljit Bhamra, Steafan Hannigan, etc. 2000 作。Offspring)
- *ANDREW WHITE: Pray For Rain B
(スコットランド出身の SSW で屈指のブリティッシュ・フォーク・キリストの心飛ぶデビュー作。2001 作。Vertical)

[DVD/FAIRPORT]

※国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- *FAIRPORT CONVENTION: Cropredy Festival 2001 ¥3800
(2001 年の Cropredy でのライブ。約 90 分。2002 作。Classic Rock Legends)
- *SANDY DENNY: Under Review ¥3800
(外装パッケージに傷みがありますが、DVD 本体は新品同様。115 分。2006 作。Sexy Intellectual)

[DVD/FAIRPORT] PAL

※PAL 方式再生可能 DVDプレーヤー/パソコンでのみ再生可能

- *FAIRPORT CANVENTION:35th Anniversary Concert ¥3800
(全 19 曲。153 分。2003 年。Secret Films 盤)

[DVD&CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- *RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx(DVD) B
*RICHARD THOMPSON:Live From Austin Tx(CD) A

(2001 年 7 月、Austin City Limits でのライブ)。メンバーは R. Thompson と Danny Thompson {ベース} と Michael Jerome {ドラムス}。1 曲目から 8 曲目までアコースティック・ギターで、9 曲目から 14 曲目までエレクトリック・ギターそして 15 曲目がアコースティック・ギター 16 曲目がエレクトリック・ギター {最後の 16 曲目は DVD のみに収録} の演奏なのだが、R. T. は真剣なギター・プレイとヴォーカルを披露し、終始釘付け。2005 作。New West)

[CD(DVD)/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

- *DAVID HUGHES & CHRIS LESLIE:Acoustic Christmas ¥1400
(英国の SSW の D. Huges と Fairport のシンガーの C. Leslie の夢の共演盤。ギターとマンダリンの伴奏による耳と心に新鮮なクリスマス・ソング集。全 6 曲の 24 分。簡易紙ジャケット仕様。1998 作。Folk Corporation)
- *DAVE SWARBRICK:It Suits Me Well
- The Transatlantic Recordings: 1976-1983 ¥2790
("Swarbrick" {1976 年}, "Swarbrick 2" {1977 年}, "Smiddyburn" {1981 年}, "Flittin" {1983 年} の "2 in 4" の二枚組 CD。全 46 トラック。2016 作。Cherry Tree)
- *FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking ¥2790
(副題 "Fairport With Swarb At Derby"。2003 年、Derby のアセンブリ・ルームに Dave Swarbrick を招いて、収録した D. Swarbrick 救援 1000 枚限定超レアなチャリティー CD。2003 作。Front Row)
- *DUNCAN WOOD & GUESTS:Swarbricks B
(本作のアイデアは Cathal McConnell と Duncan Wood が Swarb と Edinburgh Folk Club で共演したことに始まる。全曲 Swarb 作曲の曲で全 17 トラック収録。マンダリン、マンダリン、フィドル、ヴァイオリン、バウロン等を演奏する Duncan は、Swarb の曲は完成されていて、簡単には編曲不可能と判断し、じゃあセッションして作ろう! ということになって、Cathal McConnell {フルート、ホイッスル}、Martin McDonald {ギター、ボーンズ}、Gavin Sutherland {ギター}、Maureen Hunter {ハープ} の仲間とフォーク・クラブでセッションするように作ってしまったのが本作。これが功を奏して、まるで Boys Of The Lough のようなスコティッシュな Swarbrick Music が完成。2013 作。Beaechwood)
- *ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK
:The Cold Grey Light Of Dawn(1998 作。Musikfolk) C
- *ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY:Nightbirds A

(Dando Shaft, Whippersnapper の K. Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。Kevin は Rosie という花を得て、Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ・フォークを開花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていたくなる。2014 年制作の 2016 リリース作。Haystack)

*ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO

:Twangin' 'n' A-traddin' Revisited A

(1994 年作の Big Beat Combo=Ashley Hutchings, Richard Thompson, Simon Nicol, Maartin Allcock, Simon Care, Phil Beer 他=の青春時代のポップ&ロック・アルバム“Twangin' 'n' A-traddin' ”に三曲{内二曲は 60 年代風がールズ・トリオの“Velveteens”がヴォーカル}を加えた“Revisited”版。全 15トラック。三つ折り紙ジャケット仕様。十代の頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)

*ALBION CHRISTMAS BAND:One For The Road A

(2013 年、Albion Christmas Band{Ashley Hutchings, Simon Nicol, Kellie White, Simon Care}が結成 15 周年を記念して行ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドンの Kings Place でのライブを収録したアルバム。全 19 トラック。清く美しい曲が多い英国的に美しいクリスマス音楽。2014 作。Rooksmere)

*ALBION DANCE BAND:I Got New Shoes Revisited A

(Albion Dance Band{Ashley Hutchings, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster, John Shepherd そしてゲストの Polly Bolton}の 1988 年作が CD 再発。ボーナス・トラック 3 トラック{2 曲がライブで 1 曲がスタジオ録音}付の全 13 トラック。この時代の Ashley 関連のアルバムはどれも勢いがある。久しぶりに本作を聴いたが、スシと重くて跳ねるドラム、ノイズなエレキギター、中世風味等など渾然一体としたる英国風フォーク・ロックはハワフルでかつジャンプ力がある。皆さん、乗ってますねえ。1988/2014 作。Talking Elephant)

*SIMON NICOL:Consonant Please Carol A

(Simon Nicol の 1992 年作のセカンド・ソロ・アルバム。“Rosemary's Sister”の作者 Huw Williams 作の曲を 4 曲を含む本作は、英国的叙情はさらに深まっていて、しんみりと心に響く。名作。w. Martin Allcock, Gerry Conway, Danny Thompson, Maggie Reilly, Beryl Marriott, Grant Bowden, Sherryl&Sheila Parker, Pete Zorn。1992/2014 作。Talking Elephant)

*CHRISTMAS IN ALBION “A Festive Compilation” A

(Albion Band, Albion Christmas Band, St Agnes Fountain, Phil Beer, Fairport Convention, Chris & John Leslie, Amazing Blondel, Andy Steele の「フォーク・ロック」なクリスマス・ソング集。全 20 トラック。2012 作。Talking Elephant)

*FAIRPORT CONVENTION:And The Band Played On B

(2003 年 2 月 22 日の Marlowe Theatre のコンサート・ライブ音源からの 20 トラック{26 曲}収録の 2 枚組。メンバーは、S. Nicol, D. Pegg, Rick Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway, Andy Guttridge。2012 作。Secret)

*SHIRLEY&DOLLY COLLINS:Snapshots A

- (1970年代後半のライヴと60年代録音のデモ音源数曲の計22曲入。
ShirleyのシンギングとDollyの牧歌的なメロディの音色はイングランドのトラッドの牧歌的で故郷のような温もりを保持。2006作。Fledg'ling)
- *FAIRPORT CONVENTION: Before The Moon D
(1974年のEbbets Fieldでのライヴ。二枚組。20トラック。2002作。Pilot)
- *ANNE DE BRETAGNE C
(ハード・カバー装丁の2枚組。副題“Le Rock Opera d'Alan Simon”。全曲Alan Simon作詩作曲の中世ブルターニュの歴史絵巻物語。参加ミュージシャンが豪華。Cecile Corbel, Fairport Convention, Chris Leslie, Tri Yann, Didier Squiban, Pat O' May 等等。全30曲。色鮮やかに描かれたP48の歴史絵巻ブックレット付。2009作。Babaika)
- *THE GATHERING BRITANNIA: The Bridge Between a
(Gathering Britanniaなるバンドのラインナップは何と、Ray Jackson, Jerry Donahue, Doug Morter, Rich Kemp, Clive Bunker、そしてJerry Donahueの娘でシンガーのKristina DonahueというFairport, Fotheringay, Albion Band, Steeleye Span, Jethro Tull出身者の夢のバンド。おじさん達の中で、Kristinaの優美なヴォーカルが花を添えている。Produced by Jerry Donahue, Ray Jackson and Doug Morter。2011作。Itsaboutmusic.com)
- *FAIRPORT CONVENTION: More Things We Did On Our Holiday B
(2枚組セット。ディスク1は1986年のCropredy Festivalのライヴで全12曲{内4曲はIain Matthewsがリード・ヴォーカル。そのI. MatthewsにS. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Jerry Donahue, Cathy Lesurf, Clive Gregson, Christine Collister}。ディスク2は1987年のCropredy Festivalのライヴで全13曲{S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Ralph McTell, June Tabor, D. Swarbrick, Ian Anderson, Cathy Lesurf}。Produced by Dave Pegg。Secret)
- *ALBION BAND
: Another Christmas Present - Live In Concert A
(Cathy Lesurf, Ashley Hutchings, John Tams, Phil Beer, Martin Bell, Trevor Fosterのラインナップで1986年に行ったクリスマス・ツアーの未発表ライヴ盤。全19トラック。2010作。Talking Elephant)
- *ALBION BAND: Vintage Vol. 2 A
(Albion Bandの1972年~80年間の未発表音源を集めた編集CD。メンバーはAshley Hutchings, Shirley Collins, Martin Carty, Dave Mattacks, Simon Nicol, Sue Harris, John Kirkpatrick, John Tams, Graham Taylor等無敵のメンバー。70年代Albion/Albion Dance Bandの集大成的音楽。全15トラック。2010作。Talking Elephant)
- *ASHLEY HUTCHINGS & RAINBOW CHASERS: A Brilliant Light A
(Ashley & Rainbow Chasersの2004年12月のライヴ。16曲入の2枚組。それぞれが魅力的なヴォーカルを披露し、ギター、フィドル、ヴァイオリン等のアコースティックな音色が美しい英国的叙情と気品溢れる唄と音楽が堪能できる心洗われるライヴ。2005作。Secret)
- *ASHLEY HUTCHINGS AND KEN NICOL: Copper, Russet And Gold C
(Ashleyの、AlbionもRainbow Chasersも離れた本作は長年の音楽

仲間でギター名手でシガーの K. Nicol との共演盤。K. Nicol はブリティッシュ・フォーク然とした美麗で巧みなアコースティック・ギターで、かつ時に格調高いエレキギターをかき鳴らし、英国情緒を豊かに演出し、Ashley と K. Nicol が毅然としたヴォーカルで Ashley&Ken 流英国情緒を堪能させる。ゲストで美声を震わす Abbie Lathe と Becky Mills が良き英国情緒の芳香を添えている。2010 作。Park)

*ALBION BAND: Captured B
(1990&91 年の Albion Band {A. Hutchings, Julie Matthews, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster} と 1992 年の Albion Band {S. Care と T. Foster が抜け、ギターの Keith Hinchliffe が加入} の音源からの編集盤で全 13トラック。2009 作。Talking Elephant)

*ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE
: My Land Is Your Land C
(イングランド側は Ashley&Friends とイタリア側は Ernesto De Pascale& Friends の共演アルバム。Ashley 側は、Rainbow Chasers のヴォーカルの Ruth Angell&Jo Hamilton の二人に Chris Leslie, Ken Nicol, PJ Wright, Lester Simpson, Marc Hutchinson 等強力ラインナップで、イングランド情緒を湛えた潔いフォーク・ロック。2008 作。Esoteric)

*KEITH DEWHURST & THE ALBION BAND
: Lark Rise To Candleford B
(Albion Band の 1980 年作。80/2008 作。Talking Elephant)

*SWEEPS "A Joyful Celebration Of The Morris" B
(Albion Dance Band, Morris On Band, Grandson And Great Grandson Of Morris On, Chris Leslie, Tickled Pink, Albion Band, Cobbled Together の音源からの生え抜きもモリス曲が全 14トラック。BGM で流してるだけでモリス祭り気分。2008 作。Talking Elephant)

*ALBION MORRIS: Still Dancing After All These Years B
(Albion Morris は Ashley Hutchings のモリス・ダンス曲のロッシェア・プロチに影響を受けて 1972 年に結成されたダンサー付グループ。本作は 2002 年の 30 周年記念にどこぞの屋根裏部屋で録音されたもの。メンバーは Shirley Collins {ここではナレーション役}, Graeme Taylor, Michael Gregory, Philip Picket, Tom Leary, John Watcham, Ian Culter, Jon Davie 等モリス界のツモヲを含むメンバー。2008 作。Talking Elephant)

*DAVE PEGG&PJ WRIGHT: Galileo's Apology a
(Fairport の D. Pegg と Little Johnny England, Dylan Project の PJ とのデュオ・アルバムはオヤジ趣味の渋く気概があり、それでいて風通しの良い爽やかな SSWタイプ音楽。2007 作。Matty Grooves)

*THE WORKING PARTY: Live At The Mill ¥1000
(Working Party は Chris Leslie, Troy Donockley, Simon Mayor, Chris Parkinson, Martin Allcock によるスーパー・"即席"バンド。"The Kid on the Mountain", "The Lark in the Morning", "Sigh Beag Sigh Mor", "The Mason Apron", "The Star of County Down" 等等など名曲ずらり。2006 作。TWPPCL)

*SANDY DENNY: Where The Time Goes ¥2190
(1967 年収録の Strawbs との同曲のリジナル・ヴァージョンをフィーチャーした 18 曲。本作自体は 1967 年 Saga というレーベルから発売された Sandy の最

初のスタジオ録音音源からその時のアウトテイク5曲を含むもの。67/2005作。Sanctuary)

- *SANDY DENNY:The Original Sandy Denny ¥2190
(“North Star...”の前の67年作。Trojan/Sanctuary)
- *SANDY DENNY:Sandy a
(72年作“Sandy”に“Pass Of Arms”からの2曲を含むボーナス曲5曲を加えたリマスター盤。72/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Like An Old Fashioned Waltz a
(73年作“Like An Old Fashioned Waltz”に未発表音源から4曲のボーナス曲を加えたリマスター盤。73/2005作。Island)
- *SANDY DENNY:Rendezvous a
(77年作“Rendezvous”にプロモーション・シングルB面を含むボーナス曲5を加えたリマスター盤。77/2005作。Island)
- *JOHN&CHRIS LESLIE:Ship Of Time D
(John&Chris Leslie兄弟の76年製作のデュオ・アルバム。John&Chrisがイングランド等のダンス曲と民謡を若い頃から愛していたのが牧歌的なトラッドの演唱からほんわかと伝わってくる。青春の日のトラッド。締め括りは“Adieu Sweet Lovely Nancy”。76作。Kissing Spell)
- *FAIRPORT CONVENTION:Off The Desk D
(2枚組。Ric Sanders編集の2004年～2005年のライヴ音源から全22曲。2006作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Across The Centuries ¥1000
(2枚組20トラック入編集盤。2000年のライヴでのライヴ録音“Now Be Thankful”に“The Airing Cupboard Tapes 71-74”から5トラック、“Who Knows”から5トラック、“Acoustically Down Under”から4トラック、“The Wood&The Wire”から1トラックそして“Festival Cropredy 2002”から4トラック。2008作。Smith&Co)
- *FAIRPORT CONVENTION
:A Lasting Spirit The Collection ¥3280
(Fairportの3枚組。ディスク1は希少曲を含む初期の音源と97年のクロムウェリーのライヴから初期のレパートリーを収録で18曲。ディスク2はスタジオ録音からの15曲。ディスク3は主に97年のクロムウェリーのライヴから14曲。ライヴのラインナップはR. Thompson, D. Mattacks, Vikki Clayton, Jerry Donahue, D. Swarbrick, Rick Sanders, Chris Leslie, Dave Mattacks, Bruce Rowland, D. Pegg, S. Nicolと思われる。2005作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Fairport Companion C
(Fairport関係音楽家の編集CD。36トラック収録の2枚組。人脈図付。Ian Campbell Folk Group, Ethnic Shuffle Orchestra, The Uglys, Sandy Denny, The Pembroke Unique Ensemble, Al Jones, , Trader Horne, Steeleye Span, Stefan Grossman, Marc Ellington, Shelagh McDonald, Shirley Collins&The Albion Band, Spiryogyra, Lal& Mike Waterson, Albion Country Band, Ian Matthews, Etchingam Steam Band, Harvey Andrews&Graham Cooper, Albion Dance Band, Royston&Heather Wood, The Albion Band, Dave Swarbrick, Ashley Hutchings&Friends。2006作。Castle)

- *FAIRPORT CONVENTION:The Battle C
 (ドイツで The Battle というタイトルで発売された“The Five Season”と
 “Red&Gold”の特殊紙ジャケット2枚組 CD。2005 作。ドイツMembran Music)
- *FAIRPORT CONVENTION:Fairport Convention A
 (4曲のボーナス付デジタル・リマスター。68/2003 作。Polydor)
- *FAIRPORT CONVENTION:What We Did In Our Holiday A
 (3曲のボーナス付デジタル・リマスター。69/2003 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :Heyday “The BBC Sessions 1968—69 A
 (8曲のボーナス付デジタル・リマスター。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:“Babbacombe” Lee A
 (2曲のボーナス[BBC 録音で内1曲は J. Donahue、残り1曲は S. Denny 参
 加]付デジタル・リマスター。71/2004 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Live Convention C
 (5曲のボーナス付デジタル・リマスター。74/2005 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon C
 (2枚組。74年のデッハーでのライヴでメンバーは Sandy Denny, Trevor
 Lucas, D. Swarbrick, D. Mattacks, D. Pegg, Jerry Donahue。
 全20曲。P22のブックレット付。2002 作。Pilot)
- *FAIRPORT CONVENTION:Rising For The Moon C
 (4曲のボーナス付デジタル・リマスター。75/2005 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:House Full A
 (2曲のボーナス付デジタル・リマスター。86/2001 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Gladys' Leap A
 (3曲のボーナス付リマスター。ボーナスは82年の Cropredy のライヴで、Trevor
 Lucas, D. Swarbrick, D. Pegg, J. Donahue, D. Mattacks, S. Nicol の最
 強の布陣。T. Lucas がヴォーカルの2曲の何と強力なこと。Fairportファン
 ン感涙! Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION
 :What We Did In Our Holiday(69 作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Unhalfbricking(69 作。Island) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Full House(70 作。Hunnibal) ¥1580
- *FAIRPORT CONVENTION:Angel Delight(71 作。Island) ¥1000
- *FAIRPORT CONVENTION
 :The History Of Fairport Convention ¥1580
 (フェアポート初期のベスト盤。全18曲。フェアポートの人脈地図付。72 作。Island)
- *FAIRPORT CONVENTION:Nine(73 作。Island) ¥1000
- *FAIRPORT CONVENTION:Red&Gold ¥1580
 (88 録音の“Red&Gold”に94年の Cropredy Fes での“Close To The
 Wind”を加えた再発 CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Five Seasons ¥1580
 (90 録音の“The Five Seasons”に94年の Cropredy Fes での“Caught
 A Whisper”を加えた再発 CD。HTD)
- *FAIRPORT CONVENTION:Jewell In The Crown a
 (95 作。Green Linnet)
- *FAIRPORT CONVENTION:The Wood&The Fire ¥1000

(S. Nicol, C. Leslie, D. Pegg, R. Sanders, G. Conway から成る Fairport
1999 作。Woodworm)

- *FAIRPORT CONVENTION:The Cropredy Box D
(Cropredy の 30 周年ライヴ。3 枚組。98/2003 作。Sanctuary)
- *FAIRPORT CONVENTION:XXXV a
(2001 年収録の Fairport30 周年アルバムに 2002 年の 30 周年記念ツアーの
ライヴ音源から Simon Nicol がリード・ヴォーカルの“The Widow Of
Westmorland’s Daughter”と Chris Leslie がリード・ヴォーカルの“Rosie”
の 2 曲を加えて発売。全 16 曲。2001/2006 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:25th Anniversary Concert B
(Fairport 結成 25 周年記念コンサート{1992 年の Cropredy Festival}の 2
枚組ライヴ盤。ゲスト:Robert Plant, Richard Thompson, Chris Leslie,
Julianne Regan, Ralph McTell, Dave Swarbrick, Jerry Donahue,
Ashley Hutchings, Vikki Clayton, Bruce Rowland, Danny
Thompson, Geoff Hughes。92/2007 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT CONVENTION:Old・New・Borrowed・Blue ¥1000
(Woodworm と Green Linnet から発売され長い間廃盤だった 1995 年
アコースティック・フェスティバルの“Banbury Mill Theatre”でのライヴ盤が再発。
ラストの“Matty Groves/Dirty Linen”のみスタジオ録音。S. Nicol,
D. Pegg, M. Allcock, R. Sanders。95/2007 作。Talking Elephant)
- *FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking D
(D. Swarbrick 救援 1000 枚限定チャリティCD。副題“Fairport With Swarb
At Derby”。2003 作。Front Row)
- *DAVE SWARBRICK WITH FAIRPORT CONVENTION:SwarbAid ¥1500
(“The Bonny Black Hare”, “My Heart’s In New South Wales”,
“Rosie”, “When I Paint My Masterpiece”の 4 曲入チャリティCD。
Woodworm)
- *FAIRPORT CONVENTION:Over The Next Hill C
(2004 作。Matty Grooves)
- *FAIRPORT CONVENTION:Who Knows? ¥1580
(副題“The Woodworm Archives Vol. 1”。1975 年 10 月 31 日の Uxbridge
Brunel University でのライヴ。メンバーは Sandy Denny, Trever
Lucas, Jerry Donahue, Dave Pegg, Swarb, Bruce Rowland。全 13 曲。
2005 作。Talking Elephant)
- *THE COMPLEAT DANCING MASTER B
(74/2002 作。Fledg’ling)
- *LINDA THOMPSON:Give Me A Sad Song B
(未発表 & 希少曲集。17 曲。2001 作。Fledg’ling)
- *RICHARD THOMPSON:Henry The Human Fly B
(デビュー作にして孤高。オリジナルジャケットにはなかった希少写真付。
w. Sandy Denny, Linda Peters, Andy Roberts, Ashley Hutchings,
John Kirkpatrick, Barry Dransfield, Pat Donaldson, etc.
72/2004 作。Fledg’ling)
- *RICHARD&LINDA THOMPSON:Hokey Pokey a
(リマスター。未発表ライヴ音源 5 曲ボーナス曲入。75/2004 作。Island)
- *RICHARD THOMPSON:Mirror Blue(94 作。Capitola) ¥1780

- *RICHARD THOMPSON:Action Packed C
 (副題“The Best of the Capitol Years”。息子Teddyとの新録1曲と初CD化2曲を含むリマスター全19曲。2001作。Capitol)
- *ASHLEY HUTCHINGS:Kickin' Up The Sawdust B
 (リマスター。77作。BGO)
- *THE ALBION BAND:Albion Sunrise A
 (副題“The HTD Recordings 1994-1999”。全32曲入2枚組。2004作。Castle)
- *THE ALBION BAND:Acousticity-On Tour B
 (Ashley Hutchings, Simon Nicol, Chris While, Ashley ReedのラインナップのAlbionの93年と94年のライブ音源からの編集CD。2004作。Talking Elephant)
- *THE ALBION BAND
 :Another Christmas Present From The Albion Band B
 (“Live In Concert”。2010作。Talking Elephant)
- *MORRISON B
 (モリスダンス曲をフォーク・ロック化した70年代ブリティッシュ・フォークの名盤。Ashley Hutchings, R. Thompson, D. Mattacks, J. Kirkpatrick, B. Dransfield。ゲスト:Shirley Collins。72/2002作。Fledg'ling)
- *ALBION BAND:Heritage ¥2080
 (これ何だろう?と思って仕入れたら、ボーナス曲4曲入計12曲の“Rise Up Like The Sun”{77作}だった。黄金期のAlbionですね。ゲスト:Kate McGarrigle, Richard&Linda, Martin Carthy, Andy Fairweather-Low。77/2001作。EMI Plus)
- *ALBION BAND:Albion Heart (95作。HTD) B
- *ALBION BAND:Demi Paradise (96作。HTD) B
- *ALBION BAND:The Acoustic Years 1993-97 A
 (未発表曲2曲を含む編集CD。全17曲。HTD)
- *ASHLEY HUTCHINGS:Rattlebone&Ploughjack B
 (Morris Dance&Molly Dance Album。76作。BGO)
- *ASHLEY HUTCHINGS DANCE BAND
 :A Batter Pudding For John Keats (96作。HTD) ¥1780
- *ALBION DANCE BAND:The Prospect Before Us C
 (リマスター。76作。BGO)
- *RIDGERIDERS:In Concert B
 (Ashley Hutchings, Chris While, Phil Beersから成るRidgeridersのアコースティック・ライブ。Ashleyがらみのアルバムの中でも最もイングラウンド的で唄や音楽に最も真摯なアルバム。全18曲。2001作。Talking Elephant)
- *DAVE SWARBRICK&FRIENDS:The Ceilidh Album ¥700
 (CD-Rにつき検盤済み。1978年発売の“The Ceilidh Album”に1977年音源の2曲を加えたチャリティー・アルバム。w. Simon Nicol, Dave Pegg, Bruce Rowland, Beryl&Roger Marriott, Allan Robertson。Atrax)
- *DAVE SWARBRICK WITH SIMON NICOL:In The Club ¥700
 (CD-Rにつき検盤済み。1982年のカセット・アルバムに81年、83年、

いて語ったり、うたったり、ギターをかき鳴らしたりする場面の後、2010年の“Sidmouth Folk Festival”での Nic Jones Trio {Nic Jones, Joe Jones, Belinda O'Hooley} のライヴが収められている。加えて“Extras”として、Nic Jones Trio が三曲、Eliza Carthy が一曲、Blair Dunlop が一曲、Pete Coe が二曲、ホーム・コンサート風ライヴで収録されている。Nic のにこやかな表情と穏やかなシンギングが印象的。88分。Topic)

*THE WATERSON FAMILY:Live At Hull Truck B
(Norma, Eliza, Mike Waterson, Martin Carty, Mike の妻 Ann, Mike の娘 Rachel, Eleanor, Lal Waterson の息子 Oliver、娘 Marry の Waterson Family の 2010 年の“Homecoming Concert”ライヴ。まるで肝っ玉母さん Norma Waterson の司会進行役。各出演者の見どころ、聴きどころ色々な Waterson 一家の伝統歌謡。Mike Waterson 翁のシンギングは特に聴きもの。いつの間にやら Eliza の貫禄は母 Norma 以上。“Bright Phoebus”, “Fine Horseman”他全 22 曲。誕生日の祝いもある至福な 2 時間 11 分 32 秒。2011 作。Beautiful North)

*MARTIN SIMPSON:Prodical Son - The Concert C
(ロンドンの Union Chapel でのライヴ。15トラックの 17 曲のライヴと Martin の故郷の小学校や生まれ育った町や家を訪ね、子供時代のことを振り返る映像。放蕩息子だった Martin が亡き母へ捧げた曲を含む 1 曲目のメロは何より圧巻で、慎重に音を選ぶギターの演奏を含め、ライヴならではの迫真の演唱は感動的。共演者は Andy Cutting [アキ], Kellie While [ケルイェール], Andy Stewart [アーストewart]。2 時間 10 分。2009 作。Topic)

[DVD/ENGLAND] NTSC all regions

※国内製 DVDプレイヤーで再生可能

*ELIZA CARTHY:My Music A
(Eliza Carthy with Jon Boden, John Spiers, Ben Ivitsky, Gideon Jukes の白熱の生演奏からスタートする Eliza Carthy のドキュメンタリー・フィルム。Eliza Carthy のソロの生演奏と上記編成バンドの生演奏をの合間に、Watersons のライヴ {モノコというのが時代を感じさせる} や Martin Carthy のギター演奏や Marry Waterson&Oliver Knight のライヴや Billy Bragg や Norma Waterson の話しなどを挟む構成。Eliza の渾身の生演奏とシンギングと Eliza が身近に感じられる DVD。Eliza のパワー溢れるフィドル演奏が物凄い。45 分。2013 作。Gonzo)

*JOHN RENBOURN・JACQUI McSHEE:In Concert A
(John の穏やかで鮮やかなギターと唄、そして Jacqui のシンギングはそのアコースティックな空気と相まって、ある種清涼感さえ感じられる気持ちのいいもの。ゲスト:Clive Carroll。1 時間 22 分。2005 作。Hard Road Recording)

(CD/ENGLAND {Free Reedリイシュー盤})

*THE OLD SWAN BAND:The Old Swan Band a
(ダンス音楽としてのみならず、イングランドのトラッド・アルバムとして魅力的な OSB の 78 年の 2 枚目。コンサーティナ&トロンボーンの Mel Dean の加入効果かバンドの音楽は躍動的でダイナミックに変身し、男女の古風なシンギングは

大空をかけるように輝いている。イングランドのダンス音楽の一つの頂点的。1978/2008 作。Free Reed)

*ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT

:The Rampin' Cat a

(イギリスのラグタイムやスキップ、ジプシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的な唄のコミックバンド Roaring Jelly [Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey] の76年のデビュー作とパブ・ミュージックでコンサート奏者の Michael Hebbert の76年のデビュー作の"2 on 1"。ゲスト:Rod&Danny Stradling, John Tams, Steve Bentley, Andrew Frank [ヴォーカル]。全22トラック。1976/2008 作。Free Reed)

*ALISTAIR ANDERSON:Concertina Workshop a

(副題"Traditional Music On The English Concertina Played Alistair Anderson"。High Level Ranters で今もコンサート演奏家として教師として活動している Alistair の74年作。本作に即した28曲収録の楽譜はイギリススタイルのコンサートを学ぶ生徒に人気。模範演奏として最高の音楽。w. Dave Richardson, Tich Richardson, Geoff Harris, Graham Pirt [見事なトラット・シンキング!]。A. L. Lloyd のオリジナル・リーダー・ノート付。14トラックの28曲。1974/2008 作。Free Reed)

*THE TRANSPORTS"The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy"D

(30周年記念再発盤。Fairport による"Dance:The Convicts' Wedding"のボーナス曲入り。1977年/2008 作。Free Reed)

*THE BALLADS OF PETER BELLAMY a

(副題"Big Broadside & Barrack Room"。Copper Family や Watersons との共演や未発表音源曲数曲を含む編集盤。全17トラック。2008 作。Free Reed)

[Single CD/ENGLAND]

*EQUATION:In Session ¥1200

(Kate Rusby&Kathryn Roberts+Lakeman Brothers の五人組。1995年のライブ。全三曲。Crapstone Music)

[LP/ENGLAND]

*SHIRLEY COLLINS:The Ballad Of Shirley Collins ¥3390

(4/1 入荷決定。限定カラー{桃色}LP 盤。Shirley Collins のドキュメンタリー映画から音楽を寄せ集めた21トラック収録の編集盤。S. Collins の録音曲に1959年に Alan Lomax とフォーク・ソング収集の旅を行った時の収録曲や Dolly Collins の宅録曲や1958年のBBCセッションなど S. Collins のかれこれ60年に及ぶ音楽活動からの稀少曲や未発表曲が収録されている。Alabama Sacred Harp Convention, Texas Gladden, Sidney Hemphill-Carter 名義の録音曲は Alan Lomax との旅でのものと思われる。A 面最後収録の"Outtake [London 1959]"というのは一体何だろう? 楽しみ色々で、奥が深そう 2018 作。Earth)

[LP/ENGLAND]

*SHIRLEY COLLINS:The Ballad Of Shirley Collins ¥3290

(限定カラー{桃色}LP盤。Shirley Collinsのドキュメンタリー映画から音楽を寄せ集めた21トラック収録の編集盤。ジョリジョリ音付きのShirley Collinsのナレーションそして麗しきShirleyのシンギングに始まり、1958年BBC音源のShirleyバンジョーの弾き語りによるスウィートな“Wondrous Love”で幕を閉じる本作は、1959年にS. CollinsがAlan Lomaxに付き添って、米国のフォーク・ミュージック収集の旅を行った時の収録曲を中心に編集したアルバムで、ShirleyやDolly Collinsの音源曲はわずか。だが、イングランドのトラッドやアイリッシュやアパラチア民謡やオールドタイム・ミュージックや霊歌やブルースなど、当時の米国の多様で豊かなルーツ音楽{ミシシッピのブルース・シンガーのLucius Smithの音楽は何と西アフリカっぽいこと!}の記録アルバムとして実に興味深く、「次はどんなのが飛び出すだろう」と、Shirley等と旅をしている気分でワクワクしっぱなし。ShirleyもAlanと旅をしながら、ワクワクな旅を続けたのだろう。Shirleyはこの旅で、感情の起伏をなくしてうたう唄い方など多くのことを学び、自身のスタイルを作ったという。本作は約60年前の米国のフォーク・ミュージックは本当に豊かだったことを教えてくれる。そして、それらの音楽が今日の米国のロックやフォークやブルースやカントリーの近きご先祖の音楽であることを。本作は広く米国フォーク〜ルーツ音楽のファンや研究者にこそ聴かれるべき米国フォーク・ミュージックの素晴らしいドキュメントなのだ。シンガーがうたい直す曲もあるが、フィールド・レコーディングならではのご愛敬。2018作。Earth)

[Vinyl EP/ENGLAND]

- *SHIRLEY COLLINS: Shirley Sings Irish ¥1690
(Collectorレコードから発売されていた稀少4枚のEPの中の四枚目のEP“Shirley Sings Irish”がおよそ50年の時を経て、7インチEP盤で再発売された。Robin Hallの素朴なギター伴奏の音色といい、Shirley Collinsの爪弾くバンジョーの音色といい、そして主演のShirley Collinsの素朴なシンギングといい、唄も音も温和で素朴で美しい。曲目はA面が“Love Is Teasing”, “She Moves Through The Fair”の二曲で、B面が“The Bold Irish Boy”, “Must I Go Bound”, “Dennis O’ Reilly”の三曲。2016年制作の2017年発売。Fledg’ling)

[LP+CD/ENGLAND]

- *BELLOWHEAD: Matachin D
(イングランド屈指の大型トラッド・バンドの最近作のボーナスCD付カラーLP限定盤。2008作。Navigator)

[CD/ENGLAND]

- *LAURA SMYTH & TED KEMP A
: The Charcoal Black And The Bonny Grey
(前回販売した“The Poacher’s Fate”があまりに素晴らしく、調べ

たら、2014年に伝統歌ばかりを5曲収録したミニアルバムが発売されていたので、早速仕入れ。これも素晴らしい！Laura Smythのイングランドのトラッドの香り高いシンギングと二人のデュエットの素晴らしさ加えて、二人によるコンサーティーナやバンジョーやフィドルやチェロの伴奏もイングランドのトラッドの素朴な味わいを醸し出していて、トータルに素晴らしい。今の時代稀有なイングランドのトラッド・アルバムだ。2014作。Broken Token)

*JOSHUA BURNELL: Songs From The Seasons B
(本作は1970年代の英国フォーク・ロックに憧れるフォーク・ロック・ミュージシャンのJoshua Burnellが立ち上げた「フォーク・ロック」プロジェクトによる英国フォーク・ロック・アルバム。彼がインスパイヤーされたというミュージシャンは、Martin Garthy, Shelagh McDonald, Barry Dransfield, Anne Briggs, Bruce Springsteen, Sandy Denny等。本プロジェクトに参加したミュージシャンは20人以上。“Two Magicians”や“Tam Lin”や“High Germany”や“Lord Franklin”や“Reynardine”等のトラッドやフォークの名曲をFairportを若返らせたようなノリで“Folk Rock”する。ヴォーカルを取るJoshuaは英国フォーク・シンガーとしての魅力ばっちり、光沢感のある独自のフォーク・ロックを体現している。憧れが花開いた美しく健やかな英国フォーク・ロックだ。聴いていて笑顔。全14曲。2018作。Misted Valley)

*STICK IN THE WHEEL: Follow Them True B
(2015年作のデビュー作“From Here”がfROOTS誌の“Album of the Year”賞を獲得したロンドンの英国フォーク・ロック・バンド“Stick In The Wheel”の既に話題の二枚目。これは不思議に魅力的な英国のトラッド&フォーク。リード・ヴォーカルのNicola Keareyの突っ張った感じのシンギングといい、70年代英国フォーク風で尖って、ごった煮的なロッキン・フォークというかトラッドは、強いインパクトがある。粗野に響くNicolaのシンギングは、むしろ「フォーク・ソング」の素の味わいを放っていて、1970年代、英国の子ども番組“Bagpuss”で親しまれたという伝統歌の“weaving Song”や人気伝統歌“Unquiet Grave”等等、彼女独特な野趣なトラッドの世界へと誘われる。サウンド的にはバンドの創設メンバーでギター奏者のIan Carterのギターがバンド・サウンドの要になっていて、Davey Graham・Bert Jansch系ギターを底力にしたふくよかなブリティッシュ・ギターで気を吐き、英国フォーク風不思議感を彩る。希少なバンドだ。2017作。From Here)

*THE RHEINGANS SISTERS: Bright Field B
(Rowan{フィドル、ヴァイオリン、ヴォーカル、バンジョー} & Anna{フィドル、ヴォーカル、コンサーティーナ他} Rheingans 姉妹の新作で三枚目。スウェーデンのフィドル・ミュージックの影響を強く受けつつ、シンギングに関しては極めてイングランド的な気品と美しさを持つ姉妹の音楽は、本作でも絶好調。二台のフィドルは、スウェーデン調の美しい音色を輝かせて舞い踊る。美しく清々しい姉妹の北欧風味の、しかし感性は極めてイングランド的なトラッド・アルバムだ。天下一品。

2018 作。Rootbeat)

*MOONRAKERS:Tides

C

(Moonrakers は三姫一太郎～Jon Bennett {ヴォーカル、ギター、ブズーキ他}, Sarah Fell {ヴォーカル、ギター}, Eleanor Dunsdon {ハーブ、ヴォーカル}, Liz Van Santen {フイドル、コンサーティナ、ヴォーカル} の四人組トラッド・グループ。レパートリーはイングランドとスコットランドを中心にした伝統曲と自作曲だが、ハーブをフィーチャーした音楽は米国の Golden Bough のような柔和さやふくよかさのある爽やかトラッド。美しく清爽感のある Sarah のシンギングとセンスの良さが光る Eleanor のハーブは Golden Bough の音楽を超える魅力を輝かせている。ハーブ奏者に人気で、ほくも大好きな Catriona McKay 作の“Swan LK243”他夢見心地な全 13 曲。2017 作。Moonraker)

*ANGE HARDY:Bring Back Home

C

(音楽、ブックレット、イラストなど全て幻術品で芸術品の夢物語フォーク・シンガーの Ange の新作。本作はテーマを決めずに台所のテーブルで唄を創ったという。その結果生まれたのは悪魔を追いかけまわしたり、家庭に回帰する音楽になったという。そんな自作曲 12 曲と伝統歌二曲の計 14 曲を収録した本作は、ケルト音楽風優美さと英国トラッド風優美さが感じられる不思議な夢物語歌として結実している。その本質的に物語歌のフォーク/トラッド志向を強く保持した上での幻術的な音楽性の高さは、比類がないほど秀逸。P28 のブックレット。ディスクには悪魔を追いかける絵。2017 作。Story)

*ANGE HARDY:Esteese

C

(英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・コールリッジ {1772 年-1834 年} の詩にインスピレーションを得て創作されたアルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォークの真の優美さを表出。独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出していて素晴らしい。w. Steve Knightley, Patsy Reid 他。P28 のブックレット付。2015 作。Story)

*KATE RUSBY:Angels And Men

C

(Kate のクリスマス・アルバム。二年前の“The Frost Is All Over”が Kate Rusby with Damien O’Kane の「シンギング・ウイズ・ギター」を要にしたクリスマス・アルバムだったのに対し、本作は「シンギング・ウイズ・バンド」による彩り感のあるクリスマス・アルバム。Kate 自身のシンギングはいつものシンギングだが、フリューゲルホーンやホルネットなどの吹奏楽器を加え、かつフォーク、ロック、ジャズなど様々な音色で彩る Damien のギターとバンジョーの演奏は、Kate 本来の魅力に加えて、Kate 独自のトラッド音楽の世界の幅を独自の手法 {フォーク・ロック風ではなく、ブラス・モンキーなどの伝統的ブラス・サウンドと多様な音楽性をミックスさせる手法} で広げていて、魅力的。全 13 曲。2017 作。Pure)

*THE TRANSPORTS “A Tale Of Exile And Migration”

B

(Peter Bellamy の伝説的名作“The Transports” {オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的事実をもとに制作されたバラッド・オペラ} から 40 年。その“The Transports”を新たなラインナップで、再

演したもの。新たなラインナップは、The Young' uns {Sean Cooney, David Eagle, Michael Hughes}, Faustus {Benji Kirkpatrick, Saul Rose, Paul Sartin} に Nancy Kerr, Rachael McShane, Greg Russell, Matthew Crampton の、トラッド二世代の精鋭達十名。Nancy Kerr と Rachael McShane の歌姫二人のシンギングが光っている。全 28 トラック。2018 作。Hudson)

*THE BALLADS OF PETER BELLAMY a

(副題“Big Broadside & Barrack Room”。Copper Family や Watsons との共演や未発表音源曲数曲を含む編集盤。全 17 トラック。2008 作。Free Reed)

*JOHN KIRKPATRICK Coat-Tails Flying B

(アコ、コンサーティーナ、メロディオンなどを持ち替え持ち替えて、ジャバラを弾きながらシンギングする John Kirkpatrick の何と生き活きとして楽しげなこと！曲目の約半数は伝統曲で、世界大戦時代の唄、農作業の唄、シュロップシャー地方の唄、自作曲、モリス・ダンス曲等などがあるときは誇らしげに、またあるときは小躍りするかのよう、またあるときは意気揚々と、唄の世界の主になったかのようにシンギングする。もうかなりのご年配なのに声の艶の良さと跳躍力あるリズムに、そして何よりポジティブな音楽に驚かされる。唄と音楽にモリスダンスのはねる気分と高揚感が充ちてる感じだ。日々是好日なワンマン英国トラッド・アルバムだ。全 14 トラック。2017 作。Fledg'ling)

*DOGGERLAND: No Sadness Of Farewell B

(英国人 Richard Burgess {ヴォーカル、コンサーティーナ、ギター他} とスウェーデン人北欧トラッドの名演奏家 Anders Ådin {ギター、ハーモニカ、ティンパニ}) の二人組“Doggerland”のデビュー作。英国フォーク & トラッド的感性なのだが、北欧の自然環境や生活やトラッドの影響だろう。感性が清々しくて、夢想的というか、Richard のシンギングもイングランド、北欧トラッド混在のアコースティック・サウンドも、その究極の美しさに息をのむ。Richard Burgess なるシンガーの名は初耳なのだが、彼のシンギングに加えて、Anders の演奏を含む二人の演奏の見事さは、まさに孤高。w. Kevin Henderson, Mats Eden. 2017 作。Westpark)

*LEVERET: Inventions B

(Andy Cutting {アコ、メロディオン} に Full English の Rob Harbron {コンサーティーナ} そして Bellowhead, Eliza Carthy Band, Full English の Tom Sweeney {ヴァイオリン、ヴァイオリン} から成る Leveret の本作はスタジオ・ライブ録音盤。イングランド的な気品とロマンティックさが音楽の根っこに感じられる、それも爽やかな風を肌を感じるような気持ちの良い音楽だ。音楽はモリス・ダンスの曲調だったり、トラッドの曲調だが、好きな散歩コースを曲にした曲や友達に捧げた曲や好きな曲からひらめいて作った曲等、風景が浮かぶような一曲一曲は、気流のように連なって躍り舞う。2017 作。Rootbeat)

*CHRIS WOOD & ANDY CUTTING: Knock John (1999 作。RUF) C

*TWO DUOS QUARTET: Half As Happy As We C

(Andy Cutting, Chris Wood, Karen Tweed, Ian Carr の四人組。

1999 作。RUF)

- *TWEED&CUTTING:One Roof Under A
(Poozies~Swap のピアノ・アコーディオン奏者の Karen Tweed と Blowzabella~Wood&Cutting~Fernhill のアコーディオン奏者の Andy Cutting のアコーディオン・デュエット・アルバム。当時、Andy Cutting に恋をしていた Kate のアコは本当にウキウキしている。ゲスト:Ian Carr。天下一品。2002 作。Fasco)
- *IAN CARR・KAREN TWEED:Fyace A
(Karen Tweed と Ian Carr のアコーディオンとギターのお遊び、楽しい会話そしてダンス。名人芸。97 作。Compass)
- *1651:Cast A Bell A
(元 Pyewackett で June Tabor の音楽アドバイザー Mark Emerson の企画 [ブレフォードの "English Dancing Master" の曲の新たな蘇生] に Andy Cutting [アコ] と Tim Harries [ダブルベース] が協力したもの。素晴らしきブレフォードの世界。2001 作。Beautiful Jo)
- *NANCY KERR & JAMES FAGAN:Twice Reflected Sun A
(北イングランドのトラッド・スタイルを保持した Nancy&James のシンギングとフィドル、ベース、ギターの伴奏は本作においても快調。とりわけ Nancy の北イングランド流の凜としたシンギングは格別で、自作曲での豊かな詩情は、James の表現力豊かなベースと Nancy の北イングランドの空気たっぷりの緩急自在なフィドルの伴奏と相まって、孤高の輝きを放っている。2010 作。Navigator)
- *THE DOVETAIL TRIO:Wing Of Evening B
(Rosie Hood [ヴォーカル]、Jamie Roberts [Gilmore & Roberts の Roberts/ヴォーカル、ギター]、Matt Quinn [コンサーティナ、ヴォーカル] の一姫二太郎のイングランドのトラッド・ユニットの Dovetail Trio の清々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありながら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015 作。Rootbeat)
- *GREG RUSSELL:Inclined To Be Red B
(Greg Russell&Ciaran Algar のシンガー&ギター奏者の Greg のソロ。ブリティッシュ・フォークなキリッとしたギターの弾き語り。を要にした Greg のシンギングの何と格調高いこと！ラウド・フォーク・コレクションからの伝統歌三曲や Dick Gaughan の名唱で知られる "The Star Of The County Down" の替え歌 "Crooked Jack" [1978 年作の "Gaughan" 収録] や自作の唄四曲などを、まるで、彼にとっては親の世代のブリティッシュ・フォーク&トラッドを切り拓いた巨匠シンガー達の精神に立ち返るほどの実直さで、うたい通している。身震いの傑作。w. Archie Churchill-Moss [アコ]、Tim Yates [ダブルベース]。2017 作。Fellside)
- *CIARAN ALGAR:The Final Waltz B
(2013 年に BBC2 の "Young Folk Award" 賞受賞の Greg Russell & Ciaran Algar の天才アイリッシュ・フィドラーの Ciaran のソロ・デビュー作。2015 作。Fellside)
- *BRAM TAYLOR:Jokers & Rogues A

- (光に照らされた新緑の葉っぱのような清々しい唄だ。本作が10枚目を数え、レコーディング・アーティストとしてヴェテラン・シンガーのB. Taylorの唄は、齢を重ね、逆に若々しい。Dylanの“I Shall Be Released”はアコースティック・ギターとエレキ・ギターを交えた伴奏で、70年代フォークぽくどことなくIain Matthewsっぽくもある。美味ブリティッシュ・フォーク。2012作。Fellside)
- *THE GIFT BAND: Live On Tour A
(Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthyの親子にPhil Alexander, Aidan Curran, David DonnellyのGift Bandによる2010年のUnion Chapelでのライブ二枚組。Normaの豊富なレパートリーを中心に、トラッドとSSW系フォークの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全17トラック。2011作。Scarlet)
- *ELIZA CARHY・TIM ERIKSEN: Bottle C
(本作は2013年の夏から2015年の一月の間に、Eliza CarthyとTim Eriksenがデュオで行ったライブからの13トラック。本作は、副題“A Game For Two Players”の通り、英米トラッドのゲームなのだ。Elizaはトラッド・シンガー&フィドラーとして、そのまま。そこにTimがエレキギターをかき鳴らしたり、ギターやバンジョーを弾いて、渾身のシンギングで対抗する。そのシンギングたるやEliza以上に英国トラッド臭かったりする。二人とも+αのパワーを噴出している。Navigator。2015作)
- *TOM McCONVILLE: Tommy On The Road B
(ヴェテラン・ミュージシャンのT. McConvilleの本作はノーサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイリッシュを加えた唄とフィドルのアルバム。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物はEwan MacColl作“Jamie Foyers” Benny Gallagher作“Stay Young”やSteve Tilston作“Slip Jigs and Reels”等、Tomの温厚なヴォーカルが心に沁みるちょっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。a. Chris Newman, Aaron Jones, Shona Kipling, Damian O' Kane, David Newey。2010作。Tomcat Music)
- *THE BALLADS OF CHILD MIGRATION A
(副題“Songs For Britain's Child Migrants”。1869年から1970年の間に、約10万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約9万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄を作詞作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While&Julie Matthews{4曲}, Jez Lowe{4曲}, John Doyle{1曲}, Coope Boyes&Simpson{2曲}, John McCusker{フィドル演奏。1曲}, Boo Hewerdine{2曲}, Belinda O' Hoooley&Heidi Tidow{2曲}。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CDブック型CD。2015作。Delphonic)
- *ROBIN DRANSFIELD: A Lighter Touch ¥2800
(“Tidewave”と1972年の未発表音源ライブの二枚組。全25トラック”。2008年。Hux)
- *BARRY DRANSFIELD: Be Your Own Man(1994作。Rhiannon) D
- *STEELEYE SPAN: In Concert 2800

(Featuring Maddy Prior.未発表音源の CD と DVD セット。2002 作。
Classic Rock Pro.)

*CHRIS FOSTER:Traces(2003 作。Green Man) B

*CHRIS FOSTER:Outsiders(2008 作。Green Man) B

*CHRIS WOOD:So Much To Defend C

(全曲自作曲で占めた本作は、英国トラッドの香りを立たせていた
これまでの彼の音楽とは違って、唄が内面に向けられているとい
うか、うたう心が素直な感じがする。二曲目“This Love Won’t
Let You Fail”は、わが子が家を離れた両親の寂しさをうたった
唄だが、自身の優しいギターと Gary Walsh の優しい Hammond オル
ガンの音色とともに、胸にぐっとくる。全曲、内面からわき上がる
ものをそのままギターを爪弾き、うたったかのような唄は、祈り
にも似た内なるパワーを感じずにはいられない。2017 作。RUF)

*FAUSTUS:Faustus(2008 作。Navigator) A

*MR. MARTIN SIMPSON & MR. DOM FLEMONS

:A Selection Of Ever Popular Favourites A

(2015 年の秋に Martin Simpson と Carolina Chocolate Drops の創
設メンバーでアメリカン・ソングスターの Dom Flemons がデュオ
を組んで、コンサートを行ったときのライブ。曲目は米国の白人
黒人の枠を超えた古き良き音楽。Martin ファンが聴けば、Martin
の米国趣味の音楽に大衆性が増したように聞こえて、面白いだ
ろうし、Dom Flemons のファンが聴けば、米国庶民の古き良き娛
楽音楽に品性が備わったように感じられて、新鮮な印象を持つ
だろう。米英の個性派が混ざり合って、ある種異種交配的な面白
さもある米国の古き大衆音楽の世界だ。2016 作。Fledg’ling)

*MARRY WATERSON AND DAVID A. JAYCOCK:Two Wolves B

(Waterson ファミリーの Marry の本作は、彼女が追い求めてきた 70
年代ブリティッシュ・フォーク風フォークを極めたあの時代の空
気感をピュアに保持した信じられないほど心ときめく音楽。その
空気感を演出するのはギタリストの David A. Jaycock の魔法的に
美しいアコースティック・ギターの響き。w. Kami Thompson, Neill
MacColl, Kate St. John, Simon Edwards。2016 作。One Little
Indian)

*MARRY WATERSON & OLIVER KNIGHT:Hidden A

(Waterson ファミリーの子世代の Marry&Oliver の本作は、Oliver
の、まるでギターのアコースティック&エレキギターをフィーチャーした夢模様のブリティッシュ・フォ
ーク・サウンドの中、Marry は彼女ならではの独特な唄の世界を創
作している。w. Eliza Carthy, Miranda Sykes, Barry Coope, Jim
Boyes, Lester Simpson, etc. 2012 作。Little Indian)

*CROWS:Time To Rise! B

(Crows は 1977 年から 1987 年まで活動したイングランドを代表する
トラッド・グループで、メンバーは Mick Ryan, John Burge, James
Patterson, Ralph Jordan の四名。1981 年に“Crows”、1986 年に“No
Bones Or Grease”の二枚のアルバムを発表。本作は一枚目から 6
曲、二枚目から 2 曲に加えて、1982 年と 1983 年にラジオ番組のため

- に収録した未発表音源から 8 曲を加えた新譜。2016 作。WildGoose)
- *JIM CAUSLEY:Forgotten Kingdom C
 (Jim Causley の五枚目に当る本作は、4 世紀から 8 世紀にイングランド西南部を支配していたケルト王国ダムノニアを夢想して制作されたもの。w. Jackie Oates, Phil Beer, Steve Knightley, Miranda Sykes, Rex Preston, Phillip Henry, Hannah Martin, James Dumbelton, Seth Lakeman, Steve Tyler, Katy Marchant, Lukas Drinkwater, The Claque, Ninebarrow, Mark Bazeley, Kathryn Roberts, Nick Wyke & Becki Driscoll, Reese Wesson, Chris Hoban & Old Uncle Tom Cobley。2016 作。Hands On Music)
- *PETE MORTON:The Land Of Time A
 (Pete Morton のようなトラッドとフォークの両要素を保持し、社会的な唄やラヴ・ソングやウイットの利いた唄などの自作曲を様々な曲調で自由にうたうフォーク・シンガーが昨今少なくなったが、久々に聴く Pete Morton の唄は、まるで広い大地に立って、遠く彼方をみやってうたっているかのように、唄が健やかでたくましい。英国フォークの伝統に根ざした「アナログ」な唄の数々だ。w. Linda Adams, Chris Parkinson, Jon Brindley, Ciaran Algar, James Budden。2015 作。Fellside)
- *FOLK AWARDS 2010 a
 (2010 年 BBC Radio2 のフォーク賞各部門にノミネートされたシンガー/グループ {Cara Dillon, Show Of Hands, Unthanks, Maukin:Causley, Martin Simpson, Hannah James&Sam Sweeney, Bellowhead, Jackie Oates, Lau, John Kirkpatrick, Jon Boden, Megson 他} の 2 枚組 CD。全 22 トラック。2008 作。Proper)
- *PETE COE:In Paper Houses (2004 作。Backshift) C
- *DAVID ROTHERAY'S "The Life Of Birds" A
 (David Rotheray の作曲曲を主にイングランドのトラッド/フォーク系シンガーがうたうシリーズの第一作目。Eliza Carthy, Bella Hardy, Kathryn Williams, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Jim Causley, Eleanor McEvoy, Camille O'Sullivan, Jack L, Nat Johnson。全 14 トラック。2010 年。Proper)
- *YOUNG TRADITION:Oberlin 1968 B
 (Young Tradition {Peter Bellamy, Royston Wood, Heather Wood} の 1968 年 11 月 17 日、米国の Oberlin College で行われたライブ。イングランドのトラッド・ファンなら冷静には聴けない見事なアカペラによるトラッド・シンキング・アルバム。三人のシンキングは極めてスティック。そのスティックさが音楽的にイングランド的の気品を生み、伝統歌の質をピュアに高めている。Peter Bellamy のシンキングのみならず、Royston も Heather もオーラを放つほどに見事なシンキングを高く貫いている。滅茶苦茶素晴らしい。アカペラによるイングランドのトラッド・シンキングの原点であり、一つの理想型。全 25 曲。1968/2013 作。Fledg'ling)
- *PAUL DOWNES:The Boatman's Cure B
 (Paul Downes を初めて知ったのはフォーク・ロック・バンドの Arizona Smoke Revue だった。彼がレコーディングに関わったアルバムは約 250 枚もあるという。本作はソロ・アルバムとしては五枚目。"Farewell Nancy"等のトラッド

- トと Mick Ryan, Harvey Andrews 等のフォーク系 SSW のメンバーが半々の本作は、Paul の人情派？熟練フォーク・シンガーとしての味わいがじっくり味わえる一枚になっている。w. Maggie Boyle, Jackie Oates, Phil Beer, Keith Kendrick, Gill Redmond。全 12トラック。2013 作。WildGoose)
- *CYRIL TAWNEY: Man Of Honour B
(1997 年のカセット・アルバムがめでたく CD 再発。本作はフォーク・シンガーの Cyril が自作曲 14 曲を 1995 年～1997 年にギター・の弾き語りを中心に収録したアルバム。副題を付けるとすれば「酒と女と海」だろうか。この副題だと、トム・ウエイを思い浮かべそうだが、中身は真逆。Cyril の「酒と女と海」は、暖炉のある暖かな部屋で、昔の思い出を偲ぶ感じで、終始穏やかペース。ゲスト: Chris While。1997 年/2012 年。Talking Elephant)
- *JOHN KIRKPATRICK: The Dance Of The Demon Daffodils A
(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Musician Of The Year” 入賞作。2009 作。Fledg’ling)
- *THE FLYNN BROTHERS: The Flynn Brothers ¥2500
(Produced by Martin Carthy。推薦文: Davy Graham。1991 作。Annadale)
- *THE YOUNG’ UNS: When Our Grandfathers Said No A
(本作が 4 枚目のイングランド北東部出身の男性ヴォーカル・トリオ。メンバーは Sean Cooney {ヴォーカル}, David Eagle {ヴォーカル、キーボード、アコ}, Michael Hughes {ヴォーカル、ギター}。「今日のフォーク・シーンで、最も人気のある面白い奴らだ」とは Jez Lowe。2012 作。Navigator)
- *PETER BELLAMY: Merlyn’s Isle Of Gramarye A
(Rudyard Kipling の本 “Puck of Pooks Hill” と “Rewards And Fairies” からの Rudyard Kipling ソング集第二段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Nic Jones, Dolly Collins, Dave Arthur, Dik Cadbury, etc. 72/2011 作。Talking Elephant)
- *PETER BELLAMY: Oak, Ash And Thorn A
(Rudyard Kipling の本 “Puck of Pooks Hill” と “Rewards And Fairies” からの Rudyard Kipling ソング集第一段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングランド産トラッド・アルバムの名盤。ゲスト: Royston Wood, Heather Wood, Barry Dransfield, Robin Dransfield。70/2011 作。Talking Elephant)
- *WHEELER STREET: Live B
(Wheeler Street は、紅一点の Sophy Blundell がヴォーカルのフォーク・フェスやライブで人気急上昇中のケントの若者 7 人組トラッド・バンド。アイルिशのノリと楽しさ、フォーク・ロックのノリと醍醐味そしてトラッド・シンキングの清澄さ等、彼らは彼らの柔らかい感性にフィットしたトラッドをあの手この手で若々しく、エ礼ギッシュに演唱する。Great! 2011 作。Stump Nugget)
- *HOME SERVICE: Live 1986 A
(メンバーは John Tams {リード・ヴォーカル}, Howard Evans, Graeme Taylor, Roger Williams, Howard Evans, Steve King, Andy Findow。フォーク・ロック・バンドの横綱 “Home Service” の 1986 年のライブ。場所はケンブリッジ・フォーク・フェスティバル。このライブは素晴らしい。John Tams のヴォーカルは威風堂々とし、バンドのサウンドは揺るぎがなく重厚。文句の言いようの

ない Home Service らしい怖れ知らずのフォーク・ロックのアルバム。2011 作。Fledg'ling)

- *MIDWINTER ¥6900
(副題“A Celebration Of The Folk Music & Traditions Of Christmas & The Turning Of The Year”。P156 の解説本付 4 枚組ボックスセット。イングランドの著名フォーク&トラッド・シンガー大集合。クリスマス期音楽の集大成。2006 作。Free Reed)
- *VICKI SWAN & JONNY DYER:Stones On The Ground A
(「フォーク・ソング」というのは石ころのようなものという Vicki&Jonny の本作はイングランドのトラッドと Vicki の母親の故郷スウェーデンのトラッドに Johnny のオリジナル曲を加えた作品。英国調とスウェーデン調の見事なトラッド・アルバムだ。2011 作。WildGoose)
- *VICKI SWAN・JONNY DYER:Gleowien (2009 作。WildGoose) A
- *ELIZA CARTHY:Neptune B
(フォーク・スタイルのアカペラからミュージック・ホールの音楽、醍醐味あるフォーク・ロック、ユーモラスな音楽、エレガントな音楽、トピカルな音楽、ノスタルジックな音楽などまるで色んな音楽が飛び出す唄のヴァリエーションを観るような印象。そんな音楽を Eliza は各唄の主人公になり、演技するように意気揚々とうたっている。w. Phil Alexander, Willy Molleson, Bethany Porter, Emma Smith, Heather MacLeod。2011 作。Hem Hem)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Up From The Deep C
(二人のイングランド・スタイルの音楽は新たな生命力を持ち、すこぶる魅力的なフォーク&トラッドを創作している。2010 作。GR!)
- *KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS:Shadows & Half Light B
(Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- *TYDE:Tyde B
(注目の北イングランドの若きトリオ。メンバーは紅一点のシンガーでフィドル奏者の Heather Gessey、ギター奏者の Seth Tinsley そしてアコ奏者の Andrew Waite。三人は若いながら、アイリッシュ、スコティッシュ、ノサンブリアンなどの曲をヴァレラン・セッション・ミュージシャン並に演奏し、驚かせる一方で、紅一点の Heather はノサンブリアの伝統音楽への傾倒が色濃いフィドルの演奏とシンキングで花を添えている。2010 作。Mrs Carsy)
- *MEGSON:The Longshot A
(イングランドのベスト・フォーク・デュオとして評判の Debbie&Stu Hanna の二人組“Megson”の本作は新旧の労働者の暮らしにまつわる唄を集めたアルバムで伝統歌と自作曲がほぼ半々。特筆すべきはイングランドの薫りに充ちた二人のヴォーカル・ハーモニーの見事さ。2010 作。EDJ)
- *MEGSON:Take Yourself a Wife A
(イングランド北東部の伝統音楽に根ざしたフォーク・デュオの 2 枚目。2008 作。EDJ)
- *MICK RYAN & PAUL DOWNES:Away In The West A
(Mick Ryan との付き合いも Mick Ryan&John Burge からだからもう 32 年。Mick の力強く、かつ伸びやかなシンキングは今が旬と思えるほど勢いがある。その勢いは彼のまろやかなシンキングとともに美しい

唄をさらに美しい唄にもしている。これぞトラッド・シンギングの見本と
言いたいほどだ。聴き惚れてばかり。w. Jackie Oates, Paul
Hutchinson。全 14 曲。2010 作。WildGoose)

- *JOHN JONES: Rising Road C
(Oysterband のヴォーカルの J. Jones の徹底してイングランド気質の気骨あ
るソロ。w. Seth Lakeman, Benji Kirkpatrick, Ian Kearny, Alan
Prosser, etc. 2009 作。トイWestpark)
- *LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A
(2008 年 BBCラジオの“Best Newcomer”賞優勝の若き女性 SSW のファースト
アルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、
何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる。独特なのは本人とプロデュ
ーサーの Vidar の二人ともが爪弾くウクレレとギターで、木漏れ日の心地よ
さというか、肌触りのよい手作りの響きが何とも何とも快い。2010
作。Fellside)
- *CHRIS WOOD: Handmade Life B
(現在 Imagined Village で活動中で、イングランドを代表するトラッド・シン
ガーに成長した C. Wood の 2010 作。珠玉のブリティッシュ・トラッド/フォーク・アル
ム。2010 作。RUF)
- *PETE MORTON・ROGER WILSON・SIMON EDWARDS B
: Urban Folk Vol. 2
(Urban Folk Vol. 1 とセットの 2 枚組。全 24 曲。97 作。Harbourtown)
- *IAN KING: Panic Grass & Fever Few B
(Shirley Collins が「This is English folk music for the 21st
century!」と言ったという期待の新星。“Adieu To Old England”,
“Death and The Lady”他全 13 曲。2010 作。Fledgling)
- *DAMIEN BARBER・MIKE WILSON: Under The Influence A
(2010 年 BBC2 “Folk Awards”の“Best Duo”入賞。70 年代の英国トラッド・
ファンへの推薦盤。Damien と Mike は Damien が奏でるコンサーティナやギターが
英国トラッドの土臭さを立てる中、Peter Bellamy や Dick Gaughan や
Ewan MacColl 等のアルバムで覚えた唄を当時の彼らのシンギングの気概
をそのままレパートリーとして、奮起して毅然とシンギングする。ジャケットは
70 年代の LPジャケット風。2009 作。Demon Barber Sounds)
- *ROGER WATSON: Past And Present A
(Muckram Wakes、New Victory Band を経て、トラッド・シンガー兼ジャズ奏
者としてソロ活動の道を歩むウェランの R. Watson の本作は、何とも心
安らぐトラッド・シンギングとダンスの快樂さを保持した心身を芯からほ
ぐしてくれる唄と音楽。滋味豊かなイングランドの香り漂う唄と音楽。
w. Jackie Oates&Tim Walker。2009 作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST: Frost Bites A
(2010 年 BBC2 “Folk Awards”の“Best Duo”入賞。イングランドのトラッド界
の二匹の若獅子 Paul Sartin [ヴォーカル、フィドル、オボエ] と Tom Paul
Hutchinson [アコ] のによるクリスマス音楽。2009 作。WildGoose)
- *BELSHAZZAR'S FEAST: The Food Of Love B
(スタジオ録音とライブ録音の 2 枚組。本作は正に極上のイングランドのダンス
音楽とトラッド・シンギング・アルバム。二人が奏でる音楽はイングランドのダン
ス曲の風合いをキープしつつ、他のモッズ・ダンス・タイプの有名どころとは

- 気高さと優雅さで上を行っている。2008 作。WildGoose)
- *DARWIN SONG PROJECT - Shrewsbury 2009 B
 (フォーク・フェスティバルで企画されたスコットランド、イングランド、アメリカのトラッド・シンガーや SSW によるユニークなコラボレーション。ライブ・アルバム。メンバーは 8 名。Chris Wood, Karine Polwart, Jez Lowe, Emily Smith, Krisa Detor, Rachael McShane, Mark Erelli。一人から四人のグループで、一曲一曲をコラボする。最後は 8 人全員でシンキングの競演で幕。全 17 曲。2009 作。Shrewsbury Folk Festival)
- *JON BODEN: Songs From The Floodplain B
 (2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Best Singer Of The Year" 入賞。P34 の写真・歌詞ブックレットの限定盤。本作はトラッドのメロディを借用した自作の唄が中心で、ギター、コンサーティーナ、モーターイオン、ドラムス、バグパイプなどの英国トラッド臭わき立つ中、持ち前の威風堂々たるシンキングで釘付けにする。徹頭徹尾 Jon らしさが煮詰められたイングランドの気品と香り立つ傑作。2009 作。Navigator)
- *BELLOWHEAD: Matachin B
 (2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Best Group" 入賞。P32 のブックレット付デラックス・エディション限定盤を販売。イングランドのトラッド・シーンの若獅子達 11 名によるスーパー・トラッド・バンドの 2 枚目。Jon Boden & John Spiers と Faustus の Benji Kirkpatrick と Paul Sartin を中心に外堀を管楽器やバグパイプやパーカッションで固めたお祭りバンド。イングランドのトラッドの可能性を大きく押し広げる頼もしい演唱の数々だ。2008 作。Navigator)
- *SPIERS & BODEN: Vagabond B
 (Spiers & Boden の本作は一瞬たりとも耳が話せないまさに感電死級のイングリッシュ・スタイルのトラッド音楽でリス音楽を含めたかれこれ 40 年のイングランドのトラッド音楽の金字塔的傑作。蛇足ながら、6トラック目で "Mary Anne" をうたってるのだが、実はこの唄は SSW の Shep Cooke が彼の 2 枚目でうたっていて、聴いていると私の頭の中で Shep のうたが重なって流れてくる。2008 作。Navigator)
- *UISCEDWR: Fish Cat Door C
 (オリジナル・メンバーの Anna Esslemont {ヴォーカル、フィドル} & Cormac Byrne {パーカッション} に Karen Tweed {アコ} と James Hickman {ギター} が加わった Uiscedwr の 2009 作。フィドルとアコとパーカッションとギターの妙技が冴えて、最高にグルーヴィーなダンス曲を繰り広げる。数曲で聴ける Anna 嬢のヴォーカルは純情無垢な可愛らしさ。2009 作。Yukka)
- *FOLK FOR MS "Generosity" A
 (20 年の活動暦という FfMS {Folk For MS} 支援のための編集 CD。Jez Lowe, Barry Dransfield, Pete Coe, Dave Burland, Harvey Andrews, Roger Watson, Tom & Barbara Brown, Askew Sisters, Johnny Coppin, Vin Garbutt, Huw & Tony Williams, Cosmotheke, Roy Bailey & John Kirkpatrick, Artisan, Cockersdale, Mike Nicholson 他提供による全 20 トラック。2009 作。WildGoose)
- *MAWKIN・CAUSLEY: The Awkward Recruit B
 (2010 年 BBC2 "Folk Awards" の "Best Group" 入賞。James and David Delarre, Danny Crump, Alex Goldsmith の 4 人組 Mawkin に、今イングリ

トの若手トラッド・シンガーの中で、今最も伝統歌の心がうたえると評判の Jim Causley {Under One Sky/Devil's Interval} が加わった、今最も華のあるトラッド・グループ。Jon&John 的なイングリッシュスタイルのトラッドのコアに向かうトラッドで歓喜させ、ヴォーカルを中心にグループとして多彩なイングリッシュスタイルのトラッドで心遊ばせる。今が旬。2009 作。Navigator)

*MOULTON MORRIS MEN:Where The Pavement Ends A
(1972 年に結成されたモリス・ダンス・バンドの 1979 年制作のアルバム [Dave Pegg&Simon Nicol のプロデュース] に 4 曲のボーナス・トラック加えて再発。全 20 トラック。当時 Melody Maker 誌のフォーク・チャート 1 位。メンバーは Simon Care, Gareth Turner, Guy Fletcher, Dave Jolly, Gareth Warren で、その後モリス音楽の分野、特に革新的分野で大活躍するツワモノ揃い。ライブ感たっぷり、モリス音楽の楽しさと醍醐味をたっぷり聴かせるモリス音楽の名作。2009 作。Talking Elephant)

*ANDY MAY:Happy Hours A
(Jez Lowe Band のメンバーで若手ノック・リヴァン・パイパーの筆頭格の A. May の本作はまさに空を羽ばたく勢い。一曲一曲に彼の思い出が込められた様々な表情のライブ演奏が楽しめる。2009 作。Fellside)

*JIM MORAY:Jim Morray A
(2003 年作のデビュー作は「Liege&Lief」以来の最重要作」と評価され話題を呼んだが、前作同様オタク趣味に徹した Jim にしか創作出来ない Jim 印の耽美なイングリッシュ・トラッドの世界。“全てが夢の中”。病み付き保証。2006 作。Niblik)

*THE NAVVY'S WIFE D
(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイルッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)

*THE MARTIN GREEN MACHINE "First Sighting" B
(Lau のアコ奏者 Martin Green のやりたい放題の実験音楽。ポータリスな彼の音楽性からある程度想像していたが、やはりジャンル分け困難な実験的でユーモラスでお遊び感覚のクロスオーバー音楽。色彩感豊かで、遊園地音楽とでも言いたい音楽。彼はほっま遊び好きやな。子どものままの感性の音楽家。w. Inge Thomson, Barnaby Stradling, Tom Cook, etc. 2009 作。Navigator)

*GRAHAM & SAM PIRT:Dance Ti' Thee Daddy A
(母親の膝の上で覚えたという伝承歌などのノック・リヴァン・パイパーのトラッドやそこで出逢ったトラッドなどを中心にした唄や音楽を父息子の親子でコンサート&アコ・セッションの伴奏で演唱したもの。シンギングは驚くほど丁寧で穏やか。時の流れから隔離されたようなイングリッシュ・東北地方の穏やかなトラッドの世界だ。2008 作。Fellside)

*SIMON CARE:Oh What A Caper A
(イングリッシュのダンス音楽シーンで、イングリッシュを代表する百戦錬磨のモデル・アコ奏者の編集 CD。Whapweasel, The Lark Rise Bnd, The Albion Christmas Band, Edward 11, The Morris On Band など全 15 トラック。

2008 作。Talking Elephant)

- *RUBUS: Rubas A
(Rubus は Emily Portman 嬢がリード・ヴォーカルのイングランドの若きトラッド・バンド。11 曲中 10 曲が伝統歌。Emily のシンキングは往年のイングランド女性のトラッド・シンガー・タイプ of の硬質で、凜として孤独感を漂わせる。音楽的には 70 年代風で、どこか Pentangle 的というか、雑多な音楽性を持っていて、独特な暗さと土臭さのあるイングランドのトラッド・サウンドを体現している。2008 作。WildGoose)
- *ELIZA CARTHY: Dreams Of Breathing Underwater A
(ライヴの空想的な夢音楽。w. Jon Boden, John Spiers, Martin Green, Eddie Reader, etc. 2008 作。Topic)
- *FAUSTUS: Faustus B
(Bellowhead の Benji Kirkpatrick [ヴォーカル、ギター、フズーキ] & Paul Sartin [ヴォーカル、フィドル、オボエ] に Eliza Carthy の相棒で Waterson Carthy でイングランドのベスト・モダン・インスト奏者の Saul Rose から成る新生 Faustus の 2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Boomerang B
(John Kirkpatrick の息子で Bellowhead, Faustus の Benji のソロ。1 曲を除き全曲 Benji のオリジナルで占められた本作は Bellowhead でのパワーをそのまま自身のソロに注入したような気骨あるブリテン島調 SSW アルバム。John Kirkpatrick & Sue Harris のご両親もバックアップ。2008 作。Navigator)
- *BENJI KIRKPATRICK: Half A Fruit Pie (2004 作。Fellside) A
- *THE MAERLOCK: Sofa A
(Royal Northern College Of Music で出会って結成された女性 2 名と男性 3 名の若きトラッド・グループのデビュー作。Lau の Aidan O'Rourke が「独創的で力強いアンサンブル・サウンド」と評。2008 作。Fellside)
- *LEON ROSSELSON: Turning Silence Into Song A
(Leon 氏の社会風刺や機知に飛んだ唄は老いてもなおかくしゃくとしてハツラツ。そんな自由な唄を Martin Carthy がご機嫌なギターで踊るようにバックアップする。聴き手を笑わせながら、社会の不条理を説く Leon のようなシンガーはそうはいない。w. Frankie Armstrong, Miranda Sykes, Robb Johnson, Jody Stecher, etc. 2004 作。Fuse)
- *COOPE, BOYES AND SIMPSON: Triple Echo C
(副題 "Songs Collected by Ralph Vaughan Williams, George Butterworth and Percy Grainger"。約 100 年前のフォーク・ソングの収集家の 3 名のコレクションから 17 曲をアカラ・トリオの CB&S がイングランド・スタイルのシンキングの薫り高く毅然とうたったもの。"Bushes And Briars" や "Lovely On The Water" ほか。2005 作。No Masters)
- *ARTISAN: Searching For Yorladale C
(副題 "Songs Of The Yorkshire Dales From The Words Of Yorkshire Poet, Dorothy Una Ratcliffe, With Music By Brian Bedford"。1988 作。Bedspring Music)
- *ARTISAN: Live C
(2002 年アメリカの WFMT Radio でのライヴ。30 トラック。2005 作。Bedspring Music)

- *VIVIEN ELLIS:The Dawn Songs A
 (中世音楽とトラッドの両方に造詣が深い Vivien は Alva 時代同様本作でもスコットランド民謡、アイルランド民謡、中世音楽、アパラチア民謡、宗教歌に加えてサバ・スタイルの15世紀バリア起源の唄やブルガリア民謡等を極力素朴な美しさを追い求めたかのような凜とした清涼なヴォイスとブルガリア民謡等その民謡固有の味わいを強くしたヴォイスとで唄の世界を旅するように唄う。2006 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Knock At The Knocker,Ring At The Bell A
 (副題“Carols, Songs & Tunes For The Christmas Season”。Andy Turner, Ian Giles, Marguerite Hutchinson, Mat Green, Sophie Polhill に Jon Fletcher から成るトラッド・グループ Magpie によるクリスマス・アルバムの名盤。2007 作。Beautiful Jo)
- *MAGPIE LANE:Six For Gold(2002 作。Beautiful Jo) B
- *KATHRYN TICKELL BAND:Instrumental C
 (Kathryn のノサンパリアン・スモール・イプスとフイドルが滅茶苦茶見事な飛びつきりの 2007 作。Band としての前作も素晴らしかったが、本作もパイプの鮮やかさと表現力の豊かさと多彩さに満ちた音楽に心躍らされる。2007 作。Park)
- *KATHRYN TICKELL+CORRINA HEWAT:The Sky Didn't Fall C
 (ノサンパリアン・スモール・イプス&フイドルの K. Tickell と先進的ハープの Corrina のデュエットはスコットランドとノサンパリアン・ランドの伝統回帰かつ女性的優美さに包まれた音楽。二人は思い出の曲や馴染み深い曲を慈しむように演奏し、唄う。2006 作。Park)
- *THE RADIO BALLADS “The Song of Steel” B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のフレイム・ミュージックで BBC ラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories Of The Men And Women Who Worked In The Steel Industry In The Don Valley”。2007 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS “Thirty Years Of Conflict” B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のフレイム・ミュージックで BBC ラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories From Three Decades Of Sectarian Conflict In Northern Ireland”。Tommy Sands, Karine Polwart, Julie Mathews, Jez Lowe 等による 10 曲。2006 作。Gott Discs)
- *THE RADIO BALLADS “The Ballad Of The Big Ships” B
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のフレイム・ミュージックで BBC ラジオで放送された“Radio Ballad”シリーズの 2006 年版“Radio Ballad”。副題“Stories From The Shipbuilders Of The Tyne And The Clyde”。John Tams, Karine Polwart, Jez Lowe 等による 14 曲。2006 作。Gott Discs)
- *NIC JONES:Penguin Eggs(不滅名盤。80 作。Topic) A
- *NIC JONES:Game Set Match A
 (Martin Carthy, Shirley Collins, Martin Simpson 等の音源提供で完成した N. Jones の 70 年代後半のライヴを収録した CD。全 15 曲。2006 作。Topic)
- *BOB FOX:The Blast(2006 作。Topic) A

- *BOB FOX: Dreams Never Leave You A
 (ヴェラン・トラット・シンガー、B. Fox の本作は、何と Fairport がバックを固めた瑞々しいもの。Bob 自身 Fairport とのりのよい付き合いを楽しむかのように伸びやかな唄を披露する。2000 作。Woodworm)
- *SIMON MAYOR&HILARY JAMES: Duos B
 (魅惑の個性的なトラット・シンガー、Hilary とマントリン音楽の道を探求する Simon のそれぞれの魅力が半々収められたライヴ集。録音は 1999～2000 年。2001 作。Acoustics)
- *SOD' S OPERA: Come On Lads... B
 (副題“Canteen Songs Of World War Two”。95 作。Beautiful Jo)
- *ROUND CAPE HORN A
 (副題“Traditional Songs Of Sailors, Ships And The Sea”。Ewan MacColl, Frankie Armstrong, A. L. Lloyd, Peter Bellamy, Cyril Twaney, Watersons, Mike Waterson, Roy Harris, Louis Killen。98 作。Topic)
- *JOHN KIRKPATRICK: Carolling&Crumpets C
 (J. Kirpatrick の各種ジヤハラの奏き語りクリスマス・アルバム。2006 作。Fledg'ling)
- *JOHN KIRKPATRICK・CHRIS PARKINSON:
 The Sultans Of Squeeze B
 (ジヤハラの巨人お二人によるジヤハラ二重奏ハート！2005 作。Fledg'ling)
- *JOHN KIRKPATRICK: Orlando's Return B
 (副題“53 English Traditional Tunes”。メロディオン、コンサーティーナ、アコーディオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブラスでサポート。2000/2003 作。Molly)
- *JOHN KIRKPATRICK: Garrick's Delight B
 (副題“48 English Traditional Tunes”。メロディオン、コンサーティーナ、アコーディオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ブラスでサポート。2000/2003 作。Molly)
- *GRAHAM METCALFE
 : Songs From Yorkshire And Other Civilisations A
 (1996 年作が CD 再発。Dave Burland の名作“The Dalesman's Litany”{偶然にも 1 曲目で“Dalesman's...”を取り上げているが}を想起させる見事な無伴奏トラット・シンキングの世界だ。正にトラット・シンキングの真髄。全 14 曲。96/2005 作。WildGoose)
- *ABBIE LATHE: Avebury (2003 作。Park) C
- *SHINING BRIGHT A
 (“The Songs Of Lal&Mike Waterson”。Performed by Maddy Prior, Norma Waterson, Eliza Carthy, Richard Thompson, Linda&Teddy Thompson, Blue Murder, Dick Gaughan, Helen Watson, Billy Bragg, Martin Carthy, Christy Moore, Christine Collister&Oliver Knight, etc. 2002 作。Topic)
- *ALONG THE COALY TYNE “Old And New Northumbrian Songs” A
 (全 22 曲。Louis Killen, Johnny Handle, Tom Gilfellon, Colin Ross, Alistair Anderson。98 作。Topic)

- *LYRA CELTICA:Lyra Celtica C
 (ノースハランドのトリオ。メンバーは元 JSD Band のフイダーの Chuck Fleming に“Young Traditional Musician Of The Year”賞受賞者の名アコ奏者の Lynn Tocker にバウオン他名打楽器奏者の Frank McGuire。Lyra の緩急自在なアコを要に Chuck と Frank がかぶさるスタイルでノースハランド、アイルランド、スコットランドのトラッドを硬軟織り交ぜて楽しませる。2005 作。Lyra Celtica)
- *JON LOOMES:Fearful Symmetry A
 (若きトラッド・シンガーでギター奏者の Jon はイングランドのトラッド・ソングとダンスの伝統をばっちりキープした生え抜き。音楽性とギターのスタイルは多くの部分で Martin Carthy と重なるが若い分、勢いがある。w. Paul Scourfield {メロディオン}, Michael Beeke {リコーダー、イングリッシュ・ハープス}, Philip G. Martin {ハーモニカ・ギター}。2005 作。Fellside)
- *GROSS CURRENT:Momentum B
 (北イングランドからフレッシュ・デビューの女性 3 名と男性 2 名 {出身地はイングランド、ノースハランド、アイルランド} の若き 5 人組。バウオン、ギター、ブザーキ、フルト、フイドル、ヴァイオリンによる演奏はイングランド、ノースハランド、スコットランド、アイルランドの音楽がクロスしたフレッシュでグルーヴ感ある音楽。音楽の質も完成度も高い。加えて男女のシンギングも気高く清楚で模範的。2005 作。CrossCurrent)
- *JOLLY JACK&FRIENDS:Rolling Down To Old Maui A
 (Steve Turner, Richard Grainger, Barry Skinner, Linda Adams, Patti Reid 他のトラッド・ヴォーカル・グループ。99 作。Fellside)
- *TICKLED PINK:Terpsichore Polyhymnia A
 (Simon Care, Guy Fletcher, Bob Kay, Trevor Landen, Gerald Claridge, Mark Hutchinson のラインナップの最強のフォーク・ロック・バンド。2005 作。Talking Elephant)
- *WHAPWEASEL:Skirl Naked A
 (98 年作の 1 枚目。5 人組で Dave Ainsley のメロディオンを中心にこじんまりとまとまったエレクトリック・カントリー・ダンス。3 枚目のショック後聴くと初々しく端正な印象。Old Swan と Tiger Moth の中間的。Produced by Rick Kemp。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL:Burn A
 (サクスの Fiona と Stuart が加入し 7 人組になった Whapweasel の限りなく 3 枚目に近い 2 枚目。何といてもアコが抜群！ Produced by Rick Kemp。2000 作。Whapweasel)
- *WHAPWEASEL:Relentless A
 (英国各地のフォーク・フェスで大人気の 8 人組エレクトリック・カントリー・ダンス・バンドの 3 枚目。2003 作。Whapweasel)
- *JACQUI McSHEE'S PENTANGLE:Passee Avant C
 (メンバーは Jacqui McShee {ヴォーカル}, Gerry Conway {トランプス}, Spencer Cozens {キーボード}, Alan Thomson {ベース}, Jerry Underwood {サクス}。ゲスト: John Gribbin, Miles Bould。99 作。Park)
- *ED RENNIE:Narrative A
 (一人ギター・シンターを爪弾き唄うトラッドの数々はとても自然。唄によっては Martin Carthy を想起させる味わいのあるものもあるが、Ed のシンギ

ソングには暖炉の温もりのようなものが感じられる。いい人のいい音楽だ。2004 作。

Fellside)

- *HEKETY:Furze Cat A
(あの Crucible のメンバー 4 名の内 3 名がメンバーのイングリッシュ・ダンス・バンドの Hekety のイングランド各地の勢いあるダンス曲のオンパレード。凄くカッコいい。2004 作。WildGoose)
- *WATERSON・CARTHY:Holy Heathens And The Old Green Man A
(クリスマス期のキャロルや伝承歌を中心に選曲された Norma&Eliza Waterasons, Martin Carthy, Tim Van Eyken の Waterason:Carthy のアルバム。ヴォーカル・グループ "Devil's Interval をゲストに迎え、めでたい日の健やかな合唱を中心にした Waterasons 家の伝統回帰のシンキング・アルバム。2006 作。Topic)
- *NORMA WATERSON:Norma Waterason A
(w. Eliza&Martin Carthy, Richard Thompson, Danny Thompson, Roger Swallow。96 作。Hannibal)
- *MARTIN CARTHY AND DAVE SWARBRICK A
:Both Ears And The Tail
(ご存知 1966 年 Nottingham の Folkus Folk Club でのライヴ。Swarb が Fairport に加入する 69 年までの 3 年間 Martin&Dave で活動。ほとんどのナンバーは Martin の初期のアルバムに収録されてはいるが、ここでは全曲編曲され直された形で即興性高く演奏されていて、臨場感抜群。2001 作。Gadfly)
- *WATERSONS:The Definitive Collection ¥1880
(過去 30 年の Topic 収録の音盤からの 19 曲入編集 CD。2003 作。Highpoint)
- *ELIZA CARTHY&NANCY KERR:Shape Of Scrape B
(今や伝説の Eliza&Nancy による 2nd。95 作。Mrs. Casey)
- *STEELEYE SPAN:Hark!The Village Wait(70 作。Shanachie) A
- *STEELEYE SPAN:Parcel Of Rogues(73 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Storm Force Ten(リマスター。77 作。BGO) C
- *STEELEYE SPAN:Sail On Silver B
(80 作。3 曲のボーナス・トラック {96 年のライヴ 2 曲と 97 年のライヴ 1 曲} 付。Park)
- *STEELEYE SPAN:The Lark In The Morning A
(初期 Steeleye のアルバムからの 33 曲入編集 CD。2 枚組。Sanctuary)
- *STEELEYE SPAN:Individually & Collectively A
(Steeleye, Martin Carthy, Tim Hart, Maddy Prior の音源 {1971& 1972 年} からの編集盤。全 12 曲。2000 作。Edsel)
- *MADDY PRIOR:Changing Winds(リマスター。78 作。BGO) C
- *MADDY PRIOR&JUNE TABOR:Silly Sisters a
(宝物。76 作。Shanachie)
- *JUNE TABOR:A Cut Above(80 作。with Martin Simpson。Topic) a
- *JUNE TABOR:A Quiet Eye(99 作。Topic) a
- *PETER BELLAMY:Wake The Vaulted Echoes ¥2980
(マルチメディア機能付 3 枚組 CD。57 曲中 16 曲が未発表曲で、16 曲がレア曲。

故 Peter Bellamy のあの魂のこもった心揺さぶられるシンギングが蘇る。マルチメディアでは、ライヴ・ビデオにインタビュー、おしゃべり、レクチャー等様々な角度から P. Bellamy が捧げる。20 世紀の大作。99 作。Free Reed)

*THE HUSH:Dark To The Sky

C

(Hedgehog Pie の Bob Fox と Jed Grimes を中心に結成された北イングランドのフォーク・グループ。2002 作。MWM)

*SIMON HAWORTH:Taking Routes

A

(心が真っ直ぐな純良フォーク&トラッド・シンガーの S. Haworth の Fellside からの 2 枚目。北イングランドの香り漂うフォーク~トラッド・サウンドと印象にくっきりと残る美しい唄は深呼吸したいほど。w. Stewart Hardy {フィドルが良く唄う}, Steve Lawrence, Andy May {ノサンブリアン・パップ いいなあ}, Terry Haworth, Rachel Unthank。2003 作。Fellside)

*HARRY COX:The Bonny Labouring Boy

D

(副題“Traditional Songs&Tunes from a Norfolk from Worker”。ノフォークの偉大なトラッド・シンガーの 45 年から 70 年の未発表曲集。2 枚組。P60 の解説書付。英国民衆歌の遺産。2000 作。Topic)

*THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER

B

(20 世紀を代表するイングランドのコンサート奏者&ミス・ダンサー W. Kimber {1872-1961} の未発表曲を多数含む 32 曲入マルチメディア機能付編集 CD。2 冊の解説書付でマルチメディアには 45 枚の写真とフィルムやイラスト等多数が収録されている。99 作。EFDSS)

*WALTER PARDON:A World Without Horses

A

(イングランドを代表するトラッド・シンガーの一人。74-80 年に W. Pardon の自宅で録音されたもので、イングランドの有名トラッド曲を多く含む全 20 曲。詳細解説付。2000 作。Topic)

*THE HIGH LEVEL RANTERS:Gateshead Revisited

a

(CD-R。90 作。メンバーは Johnny Handle, Colin Ross, Jim Hall の 3 名。ここでの HLR の唄と演奏は、より大衆的なもの。ノサンブリアン・ランド・スモール・パップスの心に響く曲やコミカルな唄など、より北イングランドの人々の心を豊かにするもの。フォーク・ミュージックの原点。90/99 作。Common Ground)